

自然的文化財のマネジメントを考える

桂 雄三（文化庁記念物課天然記念物部門／主任文化財調査官）

1. 《3. 11》と私たちの立ち位置

平成23年3月11日東北日本太平洋沖地震（東日本大震災）が起こり、死者行方不明19,386人もの壊滅的な津波被害をもたらした。

震災後様々な復興プランが動き出している。高台への移住、低地での避難タワーの整備、瓦礫を利用した海岸林の整備、震災復興公園構想等々。

手元に、岩手県から提供頂いた陸前高田市の縄文時代から近世までの遺跡の分布と津波の侵入範囲を重ね合わせた地形図がある。今回の津波の侵入範囲を縁取るように分布する遺跡が印象的である。津波被害で壊滅的打撃を受けた市街地の大部分は、縄文時代以降の沖積作用で埋め広められた低地と、近世以降の埋立で広がった低地に展開してきたことが分かる。

千年に一度ともいわれる災害を目の当たりにして、絶えず心にとめておかねばならなかったはずの、私たちの立ち位置としての風土、そして来し方行く末を再確認することを迫られた思いである。

防災に対する技術が編み出され、移動手段が発達し、情報のやり取りが容易になったとはいえ、私たちの暮らしの基礎が地域固有の風土に根ざしたものであるべきであることを再認識させられた。

2. 日本列島とそこに育まれてきた文化

ユーラシア大陸の東縁に位置する日本では、東から太平洋プレートが沈み込み、付加する地層により列島が成長し、脊梁山脈の隆起を促してきた。太平洋岸では海溝型の巨大地震、内陸部ではいわゆる直下型地震と、地震災害の記録は有史以来枚挙にいとまがないし、沈み込むプレートの圧力は、列島を細かな地形単位に分けている。

さらに沈み込むプレートがもたらす水により溶融した岩石が、火山として噴火するとともに、豊富な温泉や火山湧水といった恵みももたらしてくれる。

一方、東アジアモンスーンに規定され四周を海に囲まれた風土は、鮮やかな四季の移ろいとともに、豊富な降水量による上流域での活発な浸食作用と下流域での堆積

作用をもたらし、細かな地形単位にさらに変化を与えるとともに、多様な土壌の形成を促してきた。地域ごとに異なる土壌は、多様な植物相そして、それに対応した多様な動物相をもたらし、われわれヒトもその一員である。

寺田寅彦の随筆「日本人の自然観」に、『人類もあらゆる植物や動物と同様に長い長い歳月の間に自然のふところにはぐくまれてその環境に適応するように育て上げられて来たものであって、あらゆる環境の特異性はその中に育って来たものにたとえわずかでもなんらか固有の印銘を残しているであろうと思われる。』という件がある。

好むと好まざるとによらず、古来私たちは、地震、噴火、気象災害を始めとした自然の影響を強く受け、あるいはやり過ごす中で、地域で歴史を重ね文化を醸成してきた。我々は、こうした仕組みを知ることが必要で、過去の歴史の中での自然とのつきあい方に学びながら、現在をそして将来の暮らしぶりを選択してゆくことが肝要かと思う。

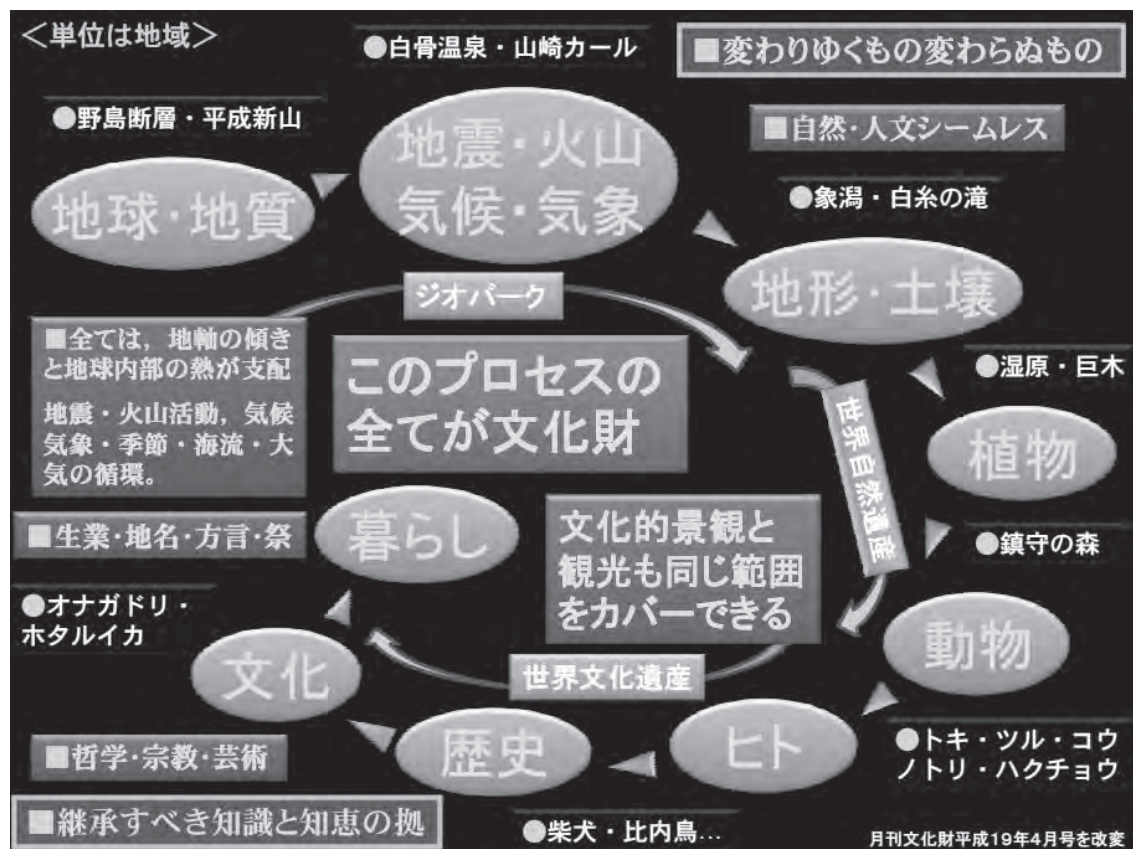
我が国では、90年間にもわたり、古生代の化石から集落の伝統的な祭りまで、およそ森羅万象と言って良いような多様な対象を文化財として保護してきた。文化財は、地域で自然と共に生きてゆく知恵、風土や土地柄に対する知恵や知識を呼び起こすための拠となるものとして、保存されてきたのではないか。

言い換えれば文化財は、こうした仕組みの節目にあたる事物を保存することにより、背後に潜む知恵や知識を継承する拠として機能すべきものと考えられる（図-1）。

また一つの文化財は、切り口により多彩な表情を見せし、多様な文化財たちは、時空を越えて複雑に絡み合い、様々なストーリーに展開する。天然記念物もこうした文化財たちの一類型として、単に学術上貴重な自然物や自然現象を保存するだけでなく、自然と人との関わり方や生業、暮らしに関わる事柄をも伝えてくれる。

3. 自然的文化財のマネジメント

3. 11の大津波の際に再認識させられたのは、私たちの暮らしが、過去も現在もそして将来も、自然環境（風土）の圧倒的な影響の下でしか展開し得ないということ



図－１．私たちの暮らしとその仕組みを伝える文化財たち

であろう。また津波により惹起された原発事故は、産業革命以降突き進んできた、様々な分野での分業化と分析的な動きと専門の分化、それにより失われた総合的視点の欠落への警鐘でもあった。

自然的文化財の定義や、マネジメントというテクニカルな？事柄に入る前に、まずは地域にある文化財個々のもつ多面的意味合いの理解が前提となるべきであり、その際、私たちがとるべきスタンスは、以下のようにまとめられるだろう。

- ①自然は文化の醸成に影響を及ぼす。
- ②自然と文化の相互作用の時系列として歴史が展開する。
- ③地域の成り立ちや仕組み（知識&知恵）は、文化財たちの物語で了解できる。
- ④地域の物語を共有し、他地域の物語から学び尊重する。
- ⑤文化財を保存しその意味を理解し、日々の暮らしと地域の将来の選択の拠とする。

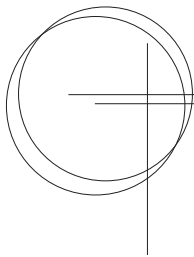
そもそも、地域では、様々な個別文化財（未指定も含む、地域資源でも良いかも知れない）が境目なく存在しており、有機的に結びついている。個々の文化財のもつ意味と、それらが相まって示される物語の意義は、暗黙の内に了解され、残し活かされてきた。

こうした地域で継承されてきた物語とそれに基づく地域のあり方の再認識の重要性の喚起こそが、文化財の総合的把握という考え方の提案の動機であり、歴史文化基本構想の根本精神である。これはまた、文化財のマネジメントが、単に個別文化財の取扱マニュアルでもなく、従来型の文化財の保存活用の枠を越えて、文化的景観、世界遺産、ジオパークや本来の意味での観光、地域振興とも通じるという視点の提案でもある。

グローバリズムの名の下に、搾取と格差を科学技術や虚構といったよいシステムにより、カモフラージュし突き進んできた近代という時期の評価と進むべき方向。文化財たちは、その道行きを指し示してくれるし、「自然的文化財」という考え方が、ともすれば忘れがちだった、私たちの暮らしの仕組みをリマインドしてくれるものならば、そのマネジメントは、単に文化財の保存活用といった枠から飛び出して、大きな力を持つことになるはずである。また、文化財（群）は保存することが目的ではない。その背後に秘められた物語（知恵）を伝えることが目的であることを忘れてはならない。

【文献】

桂 雄三 2007「天然記念物のめざすもの ―文化財保護行政の現場から―」、『月刊文化財』No.523, p.p.4-9



천연기념물이란 문화재

가쓰라 유조 (문화청 기념물과 천연기념물부문 주임문화재조사관)

2011년 3월 11일 동북 일본 태평양 지진 (동일본대 지진) 이 일어나 사상자가 19,386명에 이르는 막대한 쓰나미 피해가 일어났다.

지진 후 다양한 복구계획이 세워지고 있다. 고지대로의 이주, 저지대의 피난타워 정비, 쓰레기를 이용한 해안림 정비, 지진복구공원 구상 등등...

이와테현에서 제공받은 리쿠젠다카타시 [陸前高田市]의 죠몬시대부터 근세까지의 유적 분포와 쓰나미 피해범위를 중첩시킨 지형도를 보면 이번 쓰나미의 피해 범위의 경계선에 위치하는 것 같이 분포하고 있는 유적이 인상적이다. 쓰나미 피해로 극심한 타격을 입은 시가지 대부분은 죠몬시대 이후 충적작용에 의해 형성된 저지대로서 근세 이후 매립이 진행되었던 곳이다.

천 년에 한 번 정도 일어날까 말까 하는 정도의 피해를 눈 앞에 두고, 끊임없이 마음에 새겨두어야 했던 우리가 살고 있는 풍토, 그리고 과거와 미래를 재확인해야 한다고 독촉 당한 느낌이다.

방제 기술의 고안, 이동수단의 발달, 정보교환의 용이 등 우리의 삶을 지탱시켜 줄 기술과학이 최상으로 발전하고 있지만, 우리들의 생활 기반은 지역 고유의 풍토에 뿌리 박혀 있어야 한다는 사실이 재확인되었다.

유라시아 대륙의 가장 동쪽에 위치하는 일본은 동쪽으로 태평양지각판이 침하하면서 부가 (付加) 하는 지층에 의해 일본열도가 성장하였고, 세키료우산맥 [脊梁山脈]의 융기를 촉진하였다. 이러한 지형상의 특징으로 태평양 연안지역은 해구형 거대지진, 내륙지역은 직하형 지진이 발생하는데 이에 대한 지진피해의 기록은 유사 이래 일일이 셀 수도 없을 만큼 많고, 침하하는 지각판의 압력은 열도를 작은 지형 단위로 쪼개놓았다.

더구나 침하하는 지각판에 의해 생성된 물은 암석을 녹여 화산으로 분출시키면서 풍부한 온천과 화산 용수의 혜택을 주고 있다.

한편, 일본은 동아시아 몬순 지대에 속하고, 바다에 둘러싸여 사계가 분명하고, 강수량이 풍부하다. 이 때문에 하천의 상류 지역은 침식작용이 활발하고, 하류 지역은 퇴적작용이 활발한 특징을 갖게 되었다. 이러한 상대적인 침식작용과 퇴적작용은 작은 지형 단위를 갖는 일본 열도의 풍토를 더욱더 변화 무쌍하게 만들었고, 토양형성도 다양하게 촉진시켰다. 지역마다 다른 토양은 다양한 식물상과 그에 적응한 다양한 동물상을 만들었고, 인간도 그것의 한 부분이 되었다.

테라다 토라히코 (寺田 寅彦, 1878.11.28-1935.12.31)의 수필『일본인의 자연관』을 보면 "인류도 식물이나 동물과 마찬가지로 오랜 세월 동안 자연에 의해 키워져 왔으며, 처해진 환경에 적응하면서 형성되었다. 모든 환경의 특이성에는 그 속에서 키워진 것이라 할지라도 어느 정도의 고유한 인명 (印銘)을 남기고 있다고 생각된다."라고 적고 있다.

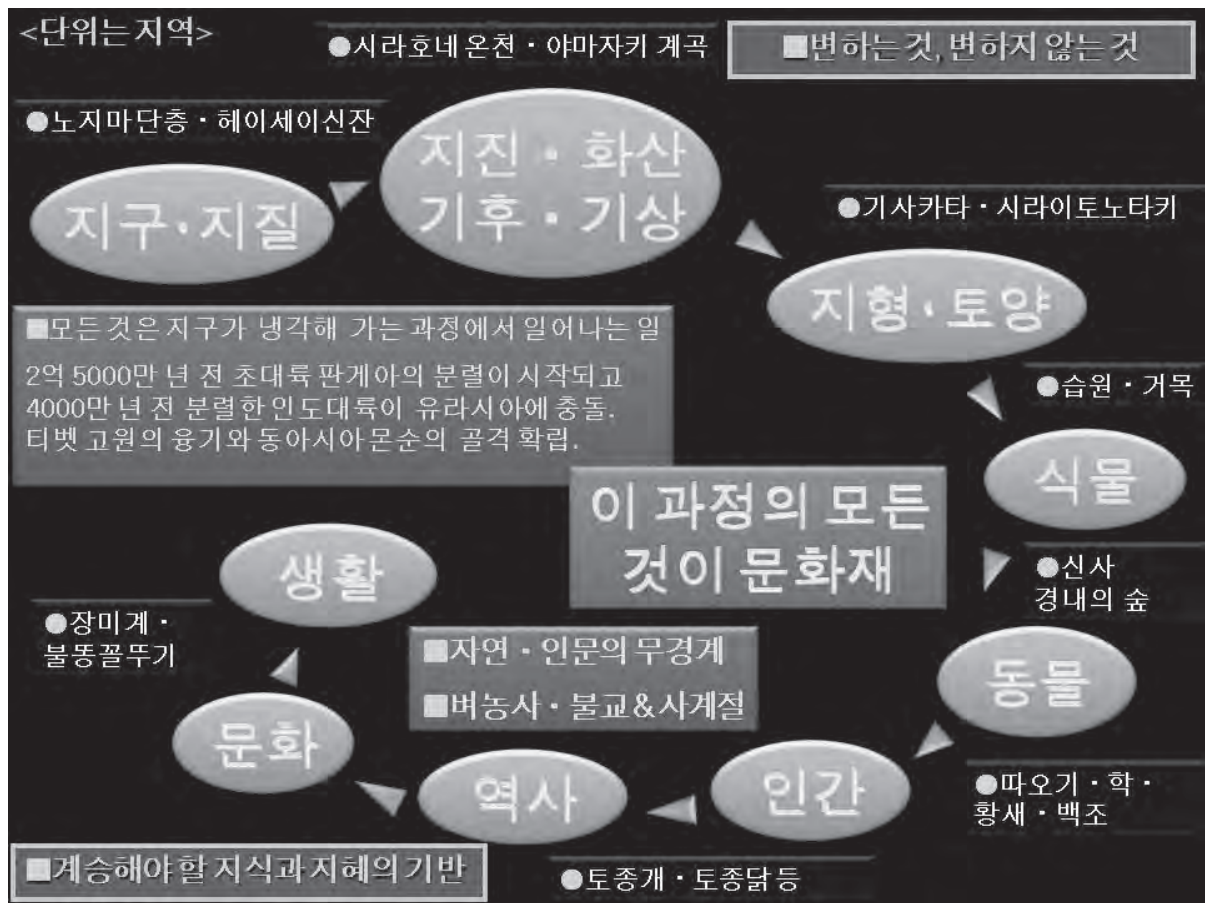
좋은 싫든 예부터 우리들은 지진, 분화, 기상 재해를 시작으로 자연의 영향을 강하게 받거나 별 피해 없이 지나가는 과정에서 각 지역의 역사 속에서 문화를 양성하여 왔다.

우리는 이러한 구조를 이해하는 것이 필요하며, 과거의 역사 속에서 자연과의 공존방법을 배우면서, 현재를

일본의 천연 기념물 지정 건수 (2012년 10월)

분류	건수
동물	194 (21)
식물	545 (30)
지질 광물	237 (20)
천연보호구역	23 (4)
합계	999 (75)

※괄호 안의 숫자는 특별 천연 기념물의 건수



우리의 삶과 그 구조를 전하는 문화재들

그리고 미래의 생활상을 선택해 나가는 것이 중요하다.

일본에서는 과거 90년 동안 고생대 화석부터 취락의 전통적 축제까지 삼라만상이라고 해도 될 만큼 다양한 대상을 문화재로 보호해 왔다. 문화재라는 것은 자연과 공생하는 지혜, 풍토와 지역색에 대한 지혜(지식)을 환기시킬 근거가 되는 것으로서 보존되어 온 것이 아닐까?

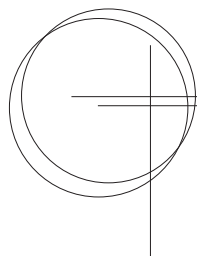
다시 말해 문화재는 우리들의 역사와 문화의 이정표에 해당되는 사물을 보존하여 그 속에 깃들여 있는 지혜 또는 지식을 계승하는 근거로서 기능해야 할 것으로 생각다. 또한 문화재는 그 절단면에 의해 다채로운 표정을 보여주며, 다양한 문화재는 시공을 초월하여 복잡하게 얽혀 각양각색의 스토리를 전개한다.

천연기념물도 이러한 문화재의 유형으로서 단순히 학술상 귀중한 자연물이나 자연현상을 보존한 것이 아닌 자연과 사람과의 관계성, 생업, 생활과 관련된 것임을 보여주고 있다고 할 수 있다.

【참고문헌】

가쓰라 유조 [桂 雄三] 2007 “천연기념물이 목표로 하는 것: 문화재 보호 행정의 현장에서”; 월간 문화재, 2007년 4월호 (통권 제 523호), 제일법규, p.p.4-9, ISSN 0016-5948





韓国における自然遺産の現況及び最近の動向 —天然記念物・名勝—

李 偉樹（大韓民国：前・国立文化財研究所／自然文化財研究室長）

1. 序

韓国の自然文化財保護制度は、1962年1月に「文化財保護法」が制定され、これに基づき98件の天然記念物が指定されることから始まった。当時韓国には自然保護に関するいかなる制度も存在せず、このため天然記念物は韓国の自然保護の代名詞となり、生物学・地質学等の自然科学者が中心となり生物学的又は地質学的価値に重点を置いて天然記念物を指定した。彼らは文化財保護の大命題のもと、国家による厳重な保存を追求した。当時文化財保護法は、文化財の保護に関連する場合に他の法律よりも最優先的に適用される特別法的な権威を持っていた。その権威は、例えば文化財委員会が審議する文化財指定区域内の現状変更行為の結果について、政府内のいかなる権力も侵害できないほどの威力を持っていた。

しかし、1990年代に環境汚染が深刻化し、これにより自然保護の重要性への認識が増した社会的ムードもあって、保健社会部環境局が環境庁、さらには環境部へ昇格するに至った。この頃環境部の官僚や市民運動家は、自然保護関連業務を環境部に一元化すべきとの議論を展開し、天然記念物も自然保護の観点から環境部に移管すべきと主張して、その後10年余りの間、社会的争点となった。結果的に天然記念物と名勝については、文化財としての存在価値が社会的に認められ文化財庁の所管業務として残ることとなったが、環境関連の法律による影響から、各種法律の制定・改定時に文化財の上位法的な概念を認めまいとする試みが現在まで続いている。

環境部との論争は、自然文化財についてのいくつかの重要な課題を残した。第一に、天然記念物や名勝として扱われる自然物が果たして文化財であるのかという疑問があり、これについての制度的改善が必要との認識が関連公務員や専門家の間に広がった。

第二に、これまで天然記念物と名勝についての政策は、指定及び毀損防止のための規制が中心であるのみで、科学的な調査研究に基づく管理政策は行われなかった。環境関連の専門家達はこの点を集中的に攻撃し、天然記念物と名勝の科学的管理政策を策定することが重要

な問題として浮上した。

第三に、過去の権威的な指定と保護政策から脱却し、環境部及びその他関連部署との協力を図り、国民の参加と共感を極大化させる政策の必要性に迫られた。初期の文化財保存政策においては私有財産権についての規制は大きな問題とならなかったが、社会的認識の変化に伴い、私有財産権の損失に対する国民的共感そして国民参加なくしては文化財保存政策の施行が困難となり、関連各省庁の反対意見も取り入れなければならない状況となった。

2000年代に入り、上述したような諸問題を解決するための様々な試みが続けられている。天然記念物及び名勝に関する政策において、国民の被害を最小化し、住民参加を促す取り組みがなされており、他省庁との業務遂行上の差別化を図るべく努められている。このほか「文化財の不法輸出入及び所有権譲渡の禁止に関する条約」及び「世界遺産条約」等、国際的な趨勢に合致すべく自然文化財の制度を改善しようとの動きが活発化している。

2. 自然文化財の類型と指定状況

韓国において現在使われている自然文化財という用語は法的な概念ではなく、天然記念物と名勝を通称する用語として理解されている（表－2）。文化財保護法は、有形文化財、無形文化財、記念物、民俗資料として文化財を区分しており（表－1）、天然記念物と名勝は史跡と共に記念物の範疇に属する。

韓国における天然記念物は、1990年代初頭まで生物・地質・動物等の分野において文化・歴史等の人文的価値よりも自然科学的価値を優先して指定されてきたが、環境保全分野の領域が拡張されて以降、人文的価値が重要な価値として浮上した。韓国の天然記念物は現在419件指定されており、分野別の指定状況は表－3のとおりである。

名勝は2000年代以前までほとんど注目されることなく、その指定件数も9件に過ぎなかった。それまで文化財庁では、天然記念物の指定や管理についても、極めて貧弱な行政人材構造により、国家的な名勝政策の策定さえ不可能な状態にあった。また、文化財委員会にも景観

表－１．文化財の種類

有形文化財	建造物、典籍、書籍、古文書、絵画、彫刻、工芸品等
無形文化財	演劇、音楽、舞踊、工芸技術等の無形遺産
記念物	史跡：寺跡、古墳、貝塚、城跡、窯跡、遺物包含層等
	天然記念物：動物、植物、鉱物、地質、天然保護区域、自然現象等
	名勝：伝統景観及び自然景観
民俗資料	衣食住、生業、信仰、風俗、慣習、衣服、器具、家屋等国民生活の推移を理解できるもの。

表－２．自然文化財の種類

国家指定文化財		市・道指定文化財		埋蔵文化財	
天然記念物	名勝	市・道記念物	文化財資料	古生物資料	天然洞窟

表－３．天然記念物の指定状況（2011年8月17日現在）

植 物					動 物										地 質				天然保護区域			計
老巨樹	樹林地	希少植物	自生地	分布限界地	棲息地	渡来地	繁殖地	鳥類	哺乳類	魚類	昆虫類	爬虫類	海洋動物	飼育動物	地形・地質	化石	天然洞窟	岩石	山岳	海洋	島嶼	419
168	46	19	13	13	9	6	14	26	7	4	3	1	2	4	30	20	18	5	4	2	5	
259					76										73				11			

表－４．名勝の指定状況（2011年8月17日現在）

歴史・文化景観	渓谷・瀑布景観	海岸景観	山岳景観	水界	島嶼	火山	河川	植生	計
36	11	9	8	5	4	3	2	2	80

表－５．天然記念物の性格別分類（2011年8月17日現在）

文化歴史 天然記念物					生物科学 天然記念物							地球科学 天然記念物					天然保護区域		計
宗教性	民俗性	生活性	歴史性	記念性	分類学	分布学	遺伝学	生物相	特殊性	代表性	珍貴性	生物史	古生物	地質史	天然洞窟	自然現象	文化＋自然	自然科学	419
19	82	43	11	35	4	45	17	28	3	17	22	7	20	36	18	1	7	4	

に関する専門家がほぼ皆無で、関連各界においては名勝に対する関心が向けられることなく放置されていた。名勝は「史跡及び名勝」という名称で括られ、主に考古学・史学・古建築等に対する関心が高く、景観的要素は付加的なものとしてのみ扱われた。

2000年代に至り、名勝については指定のための全国的な基礎調査が実施され、指定基準を再整備する中で

「史跡及び名勝」を「史跡」と「名勝」とに分離した。

このように名勝の指定と管理を単一化することで専門家による参加の幅を拡げ、国民的な関心を高めた。その後、名勝の指定件数は毎年急増し、韓国的景観の保存という命題として推進された。

2011年8月現在、韓国の名勝は80件が指定されており、指定状況は表－４のとおりである。

3. 自然文化財の指定基準

(1) 天然記念物

韓国の天然記念物に指定された動物と植物は、1962年から1990年代初めまで生物学的価値、希少性、絶滅危機等の価値が優先視され指定された。しかし、1990年代中頃以降、環境保全の重要性が浮き彫りになり、環境部が設立される中で環境部の公務員や市民団体が天然記念物を環境関連分野に含めるべきと強く主張し、その後長期間にわたって論争が繰り返された。2006年度に至りようやく天然記念物を文化財として管理するのが妥当であるとの国レベルでの合意がなされた。

このような長期に及ぶ論争を経て、山林庁所管の絶滅危機に瀕する野生動植物に関する管理は環境部が担当することとなったが、文化財庁による天然記念物と環境部による絶滅危機野生動植物の指定が重複する問題は、今なお課題となっている。文化財庁ではこれら重複指定の問題を解決すべく多くの議論を重ね、その結果として絶滅危機と関連のない科学的な記念性を有するものや文化・歴史的な記念性を有するものを天然記念物に指定することで、環境部との重複指定の問題を解決すべく努めており、表-5のように分類方法の変更も試されている。

また、天然記念物の地質分野は、これまで洞窟・化石・岩石等、一部の分野について極めて少ない件数が指定されるのみで、国民的な関心を引くことができず、国家政策としても関心を得られなかった。これは文化財の指定基準がかなり曖昧に規定され、文化財担当者や国民の地質遺産に対する理解度が低かったことによる。文化財庁は2006年に地質文化財の指定基準を具体化し、明確に改正して地質文化財の指定を活性化させるべく努めている。

■韓国における天然記念物の指定基準

1. 動物

- ア. 韓国特有の動物として広く知られたもの及びその棲息地・繁殖地
- イ. 石灰岩地帯・砂丘・洞窟・乾燥地・湿地・河川・滝・温泉・河口・島等、特殊な環境で成長する特有の動物又は動物群及びその棲息地・繁殖地・渡来地
- ウ. 生活・民俗・衣食住・信仰等文化と関連して保存を要する希少動物及びその棲息地・繁殖地
- エ. 韓国特有の畜養動物とその産地
- オ. 韓国特有の科学的・学術的価値を有する固有の動物や動物群及びその棲息地・繁殖地等
- カ. 分布範囲が限られる固有の動物や動物群及びその棲息地・繁殖地等

2. 植物

- ア. 韓国の自生植物として広く知られたもの及びその生育地
- イ. 石灰岩地帯・砂丘・洞窟・乾燥地・湿地・河川・湖・沼・滝・温泉・河口・島嶼等の特殊地域や特殊環境で育つ植物・植物群・植物群落又は森
- ウ. 文化・民俗・観賞・科学等に関連する希少な植物であって、その保存を要するもの及びその生育地・自生地
- エ. 生活文化等に関連して価値が高い人工樹林地
- オ. 文化・科学・景観・学術的価値が高い樹林、名木、老巨樹、奇形木
- カ. 代表的な原始林・高山植物地帯又は希少な植物相
- キ. 植物分布の境界となる場所
- ク. 生活・民俗・衣食住・信仰等に関連する有用植物又は生育地
- ケ. 「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」第2条による自然遺産に該当する場所

3. 地質・鉱物

- ア. 地殻の形成に関連し、又は韓半島の地質系統を代表する岩石と地質構造の重要分布地と地質境界線
 - 1) プレート移動の証拠となる地質構造や岩石
 - 2) 地球内部の構成物質と解釈できる岩石が産出される分布地
 - 3) 各地質時代を代表する典型的露頭とその分布地
 - 4) 韓半島の地質系統の典型的な地質境界線
- イ. 地質時代と生物の歴史解釈に関連する主な化石とその産地
 - 1) 各地質時代を代表する標準化石とその産地
 - 2) 地質時代の堆積環境を解釈する上で重要な示相化石とその産地
 - 3) 新属又は新種として報告された化石のうち保存価値のある化石の模式標本とその産地
 - 4) 多様な化石が産出される化石の産地又はその他学術的価値の高い化石とその産地
- ウ. 韓半島の地質の現象を解釈する上で重要な地質構造・堆積構造と岩石
 - 1) 地質構造：褶曲、段層、貫入、不整合、柱状節理等
 - 2) 堆積構造：漣痕、乾裂、斜層理、雨痕等
 - 3) その他特異な構造の岩石：枕状溶岩（Pillow lava）、魚卵岩（Oolite）、球状構造や球果状の構造を有する岩石等
- エ. 学術的価値の高い自然地形
 - 1) 構造運動により形成された地形：高位平坦面、海岸段丘、河岸段丘、滝等

- 2) 火山活動により形成された地形：単成火山、火口、カルデラ (Caldera)、寄生火山、火山洞窟、環状複合岩体等
 - 3) 侵蝕及び堆積作用により形成された地形：砂丘、海浜、干潟、陸繋島、蛇行川、潟湖、カルスト地形、石灰洞窟、甌穴 (Pothole)、侵蝕盆地、峡谷、海蝕崖、扇状地、三角洲、砂洲等
 - 4) 風化作用と関連する地形：岩塔 (Tor)、タフォニ (Tafoni)、岩塊流等
 - 5) その他韓国の地形の現象を代表する典型的な地形
- オ. その他学術的価値の高い地表・地質の現象
- 1) 氷穴、風穴
 - 2) 泉：温泉、冷泉、鉱泉
 - 3) 特異な海洋現象等

- イ. あずまや・楼等の造形物又は自然物からなる眺望地として村・都市・伝統遺跡等を眺望できる有名な場所
4. 歴史文化景観の価値の優れた名山、峡谷、海峡、岬、急流、深淵、滝、湖沼、砂丘、河川の発源地、洞天、台、岩石、洞窟等
5. 有名な建物又は庭園及び重要な伝説地等であって、宗教・教育・生活・レジャー等に関連する景勝地
 - ア. 庭園、園林、池、貯水池、耕作地、堤防、港、旧道等
 - イ. 歴史・文学・口伝等によって伝わる有名な伝説地
6. 「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」第2条による自然遺産に該当する場所のうち、観賞又は自然の美観的に著しい価値を有するもの

4. 天然保護区域

- ア. 保護すべき天然記念物が豊富又は多様な生物・地球科学・文化・歴史・景観的特性を有する代表的な一定の区域
- イ. 地球の主な進化段階を代表する一定の区域
- ウ. 重要な地質学的過程、生物学的進化及び人間と自然の相互作用を代表する一定の区域

5. 自然現象

観賞的・科学的・教育的価値が顕著なもの

(2) 名勝

韓国の名勝は、1970年度に初めて指定されて以降2000年度までその数が9件に過ぎず、国家政策上の位置付けは皆無であった。文化財庁は2001年度全国名勝目録作成のための基礎調査を初めて実施し、この調査に基づき名勝指定基準をあらためて定めると同時に名勝の指定を積極的に推し進め、2011年現在、全国の名勝の指定件数は80件に達している。

■韓国における名勝の指定基準

1. 自然景観の優れた山岳・丘陵・高原・平原・火山・河川・海岸・河岸・島等
2. 動物・植物の棲息地で景観の優れた場所
 - ア. 美しい植物の有名な群落地
 - イ. 審美的価値の優れた動物の有名な棲息地
3. 有名な景観の展望地点
 - ア. 日の出・日の入り及び海岸・山岳・河川等の景観眺望地点

4. 韓国の自然文化財をめぐる懸案

(1) 「文化財」用語についての議論

文化財保護法は、天然記念物と名勝を法の制定当時から文化財に含めて保護・管理してきた。しかし、環境論者は、文化財は文化的産物であるとの認識に立ち、1990年代中頃から2000年代中頃まで天然記念物と名勝のような自然物は文化財よりは「環境財」の概念として扱うのが妥当であると主張した。結果的に、天然記念物と名勝は、多くの社会的議論を経て、文化財として管理するのが妥当であり世界的な趨勢とも合致するとの論理が説得力を得るようになった。

しかしながら、天然記念物及び名勝関連の専門家達は、自然物を「文化財」と呼称することに一部不適切な側面もある点を認め、そのような不適切性が文化財政策の発展の妨げになるとの判断から、環境財と区分する用語を定める必要があると主張している。これにより「文化財」を文化遺産と自然遺産を含む「国家遺産」という用語に変更するよう求め、文化財庁は優先的に文化財の名称を「Cultural property」から「Cultural heritage」に変更し、財貨としての概念が強い「文化財 (Cultural property)」という用語を「遺産 (Heritage)」の概念に変更することで、天然記念物と名勝のような自然遺産を含め、「世界遺産条約」等の国際的な趨勢に合致する「Heritage」政策を推進している。

(2) 国家政策としての位置付け

現在、韓国の国家指定文化財である天然記念物と名勝は、文化財保護法の指定基準さえ満たしておらず、市・道文化財の指定も活発ではない。したがって全体としての自然文化財の指定件数は極めて少なく、国民的関心が

低く、国家政策として占める位置も低いのが実情である。指定件数が少ない理由は次のとおりである。

第一に、天然記念物と名勝の指定基準が明確でないため、国民的な関心を低下させている。自然文化財の指定基準が広範囲かつ包括的であるため、担当公務員だけでなく関連の専門家達もどのようなものが自然文化財の対象となるのか明確には理解できておらず、素晴らしい自然文化財資源があってもこれを文化財として認識できない結果を招いている。文化財庁は自然文化財の指定基準を明確にすべく法律改正を継続的に進めており、このような努力により、現在、地質と名勝分野においては多大な成果が得られている。また、動物と植物の分野においては文化的・科学的背景を強化した指定基準が含まれるようになった。

第二に、地方自治体の文化財担当は行政職又は建築関連技術職が担当している場合が多く、自然文化財についての理解度が低いという点がある。さらに循環補職制による頻繁な人事異動により各担当者が自然文化財について理解を深める時間がなく、これを補完できる制度的仕組みもなかった。これを受け文化財庁は、2000年代初めから地方自治体の文化財担当者達の非専門性を補完すべく、各市・道に自然文化財関連の市・道文化財委員会の設置を奨励しており、市・道文化財委員会では市・道記念物の指定を活発化させ、国及び地域の自然文化財指定件数を拡大させており、自然文化財に対する市民の関心を高める役割を果たしている。

第三に、ほとんどの文化財委員会委員は、天然記念物を環境的・生物学的側面からのみ理解し文化的要素を考慮しない専門家らで構成されており、天然記念物及び名勝の指定の多様性を損ねる要因となっている。このため文化財庁は、自然文化財の指定基準を細分化し、文化・歴史・自然史を含む遺産概念の指定基準を強化し、観光・歴史・地理学等の様々な分野の専門家達が文化財委員会に含まれるようにした。これにより自然文化財の分野が多様化し、指定件数が拡大する結果をもたらした。文化・歴史分野の導入は、生物中心の環境政策との差別化がなされ、省庁間の摩擦を最小化し、国家政策としての位置付けを確保する上で一助となった。

(3) 住民及び地方自治体による参加と活用政策の強化

韓国では、1980年代初めまで全国土の開発が本格的に進まず、文化財の指定による私有財産の侵害は大きな問題にならなかった。しかし、地方自治体の権限が強化され、都市産業化が活発となる中で私有財産の侵害に対する国民的な反発が高まり、2000年代初め以降、私有財産の侵害を伴う文化財の指定はほぼ不可能となった。



図－1. 春川オルミ村の森の文化財指定に対する住民反発

それまで韓国の文化財保存は絶対保存という概念で管理され、都市産業化が活発でなかった頃は住民の反対がほとんどなかった。しかし、都市産業化が進み、私有財産の価値が上昇し、開発利益に対する期待が増すにつれ、天然記念物や名勝だけでなく、あらゆる文化財の指定時に利害関係者の敵対的な反発を招くこととなった。文化財担当者らは住民による嘆願を憂慮して指定することを避け、また、地方自治体の各種開発計画を意識して指定を妨害するケースまで発生するようになった。この流れから、自然文化財についての政策は、絶対規制の政策から住民が恩恵を受ける政策への転換なくては自然文化財の保存そのものが困難な環境となった。それ以前は、国が自然文化財を指定する際、財産権に関係なく指定できていたが、現在は、文化財の指定時に私有財産権を保護するため土地を買収又は各種のサービス施設を設置する等、利害関係者の同意を得る努力がなされている。あわせて、自然文化財の指定管理時に地域住民に利益をもたらす事業計画の策定、観光要素の開発等、各種住民支援事業を実施して地域住民による活用及び支持を高めるべく努力している。一例として、名勝に指定された南海郡の棚田村では指定当時、住民による強い反対があったが、棚田を維持する事業を住民が直接行うことで住民に恩恵がもたらされるようにし、各種生産品の販売及び観光事業等を支援することで、住民の誇りを高め文化財指定に対する不満を解消した。

(4) 国家自然遺産保存のための研究体系の構築

韓国では、天然記念物と名勝が文化財に指定されはじめた1962年以降、40年余りの間、自然遺産についての調査・研究を行える機関が存在せず、自然文化財の科学的な管理が不可能であった。1990年代中頃以降、天然記念物と名勝についての社会的条件の変化により天然記



図ー2. 大田市に所在する天然記念物センター

念物と名勝の科学的・体系的な管理政策の策定が必要となった。これを受け文化財庁は2006年4月、国立文化財研究所内に自然文化財研究室を設立し、天然記念物センターを運営することとした。

天然記念物センターは全国の天然記念物と名勝を調査研究し、自然遺産についての国民向けPR、展示、教育プログラム等を運営し、国家指定文化財と市・道指定文化財の管理に必要な各資料を提供している。

天然記念物センターでは地方自治体による協力のもと全国の天然記念物に指定された動物の死体を収集しており、獣医科学研究所、大学研究所等と協力して各種自然遺産関連の研究を行っている。

また、化石等の地質分野研究の結果物や各種工事の過程で発見された化石も埋蔵文化財保護法の規定により収集しており、これらは天然記念物センターの研究資料及び展示資料として活用されている。

天然記念物センターは現在24名の研究員と13名の施設管理要員、27名のボランティアスタッフによって運営されており、今後国立自然遺産研究所に特化して文化財庁の自然遺産政策研究機関として発展させるべく計画が進められている。

5. むすび

韓国の初期自然文化財は主に生物学的な価値、絶滅危機についての現状、自然科学的価値により指定されてきたが、1994年の環境部設立等政府機能の変化もあり、現在は自然の記念物、原生的文化遺産、歴史の実証物、自然史の証拠物、郷土的象徴物、生物学的・文化的代表性等、科学的・人文学的に学術価値の高いものを対象に保存するための努力がなされている。

韓国の天然記念物と名勝の性格は次のとおり定義され、環境的概念の自然物と差別化されている。

- 一、感歎と驚異の対象であって、自然の記念物である。
- 二、民族文化及び精神生活の母体である。
- 三、祖先の生活の様子がうかがえる歴史の実証物である。
- 四、地球の生成過程等自然史を解き明かす証拠物である。
- 五、住民の故郷への郷愁を呼び覚ます郷土的象徴物である。
- 六、地域的象徴性を有し、自然科学と文化的代表性を有している。

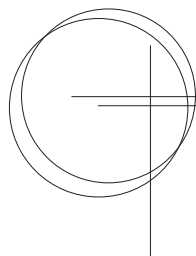
現在、韓国における自然遺産保存の目標は、文化・教育・科学等の文化及び自然史資料の保存、自然文化財を通じた文化享受の機会拡充、伝統景観の保存による国土景観の特性化及び活用基盤の構築、自然文化財関連専門分野の学問的な発展促進、伝統文化生物資源の保存及び活用基盤の構築に置かれている。

また、管理政策においては、規制一辺倒であった過去の政策から脱却し、全国の自然遺産についての研究を強化し、住民及び地方自治体によるより多くの参加を促し、自然遺産の保存に対する国民的な共感の輪を広げる方向で管理政策を策定している。

例えば、天然記念物に指定された老巨樹は伝統的に住民の生活と共にあった文化要素であるが、文化財に指定された瞬間から住民から隔離される結果を招いてきた。これは住民から文化財を隔離させ、住民に誇りはおろか、むしろ思いもよらぬ負担となって文化財指定に対する住民の激しい反発だけを招いた。これに対し文化財庁は、老巨樹の周辺を町の公園として整備するなど、町の整備事業を支援する等住民の心が天然記念物から離れないよう絶えず努力を傾けている。これは、政策担当者達が、国民の支持を得られない文化財は、結局、国の遺産になり得ないという哲学的基盤に立ちかえり、発想の転換を図ったことによるものである。

【参考文献】

- 1) 文化財庁 (2011): 天然記念物指定現況
- 2) 文化財保護法訓令 (2009): 天然記念物の老巨樹とその保存管理指針
- 3) 李偉樹 (2009): 韓国名勝の現況と展望; 『国際学術シンポジウム〈名勝の現況と展望〉資料集』, (韓国) 国立文化財研究所, p.p.291-320



韓國의 自然遺産 現況 및 最近 動向 — 天然記念物・名勝 —

李 偉樹 (前・國立文化財研究所 自然文化財研究室長)

1. 序

韓國의 自然文化財 保護制度는 1962年 1月『文化財 保護法』이 制定되고, 그에 따라 98件의 天然記念物이 指定되면서 始作되었다. 當時 韓國에는 自然保護와 關聯된 어떠한 制度도 存在하지 않았기 때문에 天然記念物은 韓國의 自然保護의 代名詞가 되었으며, 生物學・地質學 등 自然科學者들이 中心이 되어 生物學的 또는 地質學的 價値에 重點을 두고 指定하였다. 이들은 文化財 保護의 大命題 下에 國家에 의한 嚴格한 保存을 追求하였다. 당시 文化財保護法은 文化財 保護와 關聯된 경우 다른 法律보다 最優先의 適用되는 特別法의 權威를 갖고 있었다. 그 權威는, 예를 들어 文化財委員會가 審議하는 文化財 指定區域 내의 現狀變更行爲의 結果를 政府 內의 어떠한 權力도 侵害하지 못할 만큼의 威力을 갖고 있었다.

그러나 1990년대 環境汚染의 深化에 따른 自然保護의 重要性이 浮刻되는 社會的 雰圍氣의 힘을 입어 保健社會部 環境局이 環境廳을 거쳐 環境部로 昇格되기에 이르렀다. 이 때 環境部 官僚 및 市民運動家들은 自然保護 關聯 業務를 環境部로 一元化 시키려는 論議를 全開하였고, 天然記念物도 自然保護의 觀點에서 環境部로 移管시켜야 한다고 主張하여 그 후 10여 년간 社會的 이슈가 되었다. 結果의 으로는 天然記念物과 名勝은 文化財로서의 存在價値가 社會的으로 認定되어 文化財廳 所管 業務로 남게 되었으나, 環境 關聯 法律들에 의해 挑戰을 받는 餘波로 각종 法律들의 制・改定 時 文化財의 上位法의 概念을 認定하지 않으려는 試圖은 現在까지도 이어지고 있다.

環境部와의 論爭은 自然文化財에 대한 몇 가지 중요한 課題를 남겨 놓았다. 첫째, 天然記念物과 名勝에서 다루고 있는 自然物이 과연 文化財인가 하는 疑問이고, 이에 대한 制度的 改善이 必要하다는 認識이 關聯 公務員 및 專門家 사이에 널리 퍼지게 되었다.

둘째, 그 동안 天然記念物과 名勝에 대한 政策은 指定 및 毀損防止를 위한 規制가 中心이었을 뿐 科學的 調查 研究에 基盤을 둔 管理 政策은 施行되지 않았다. 環境關

聯 專門家들은 이점을 集中的으로 攻擊하였고, 天然記念物과 名勝의 科學的 管理 政策을 堅立하는 것이 重要한 問題로 浮上되었다.

셋째, 過去의 權威的 指定과 保護 政策에서 脫皮하여 環境部 및 其他 關聯 部署들과의 共助를 꾀하고, 國民들의 參與와 共感을 極大化시키는 政策의 必要性이 提起되었다. 初期의 文化財 保存 政策은 私有財産權에 대한 規制가 크게 問題되지 않았으나 社會的 認識 變化에 따라 私有財産權 損失에 대한 國民의 共感 및 參與 缺이는 文化財 保存 政策이 施行되기 어렵게 되었고, 關聯 部處들의 反對 意見도 收斂해야 되는 狀況이 되었다.

2000年代에 들어서면서 위와 같은 問題들을 解決하기 위한 試圖들이 계속되고 있다. 天然記念物 및 名勝에 관한 政策에서는 國民的 被害를 最小化하고, 住民參與를 誘導하고자 努力하고 있으며, 他 部處와의 業務 遂行上 差別化를 꾀하고자 努力하고 있다. 그밖에도 “文化財 不法 搬出入 및 所有權 讓渡의 禁止에 관한 協約” 및 “世界遺産協約” 등 國際的인 趨勢에 符合되도록 自然文化財 制度를 改善하려는 움직임이 活潑하다.

2. 自然文化財의 類型과 指定現況

韓國에서 現在 使用되고 있는 自然文化財란 用語는 法의 概念은 아니며, 天然記念物과 名勝을 通稱하는 用語로 理解되고 있다 (표 2). 文化財保護法에서는 有形文化財, 無形文化財, 記念物, 民俗資料로 文化財를 區分하고 있으며, 天然記念物과 名勝은 史蹟과 함께 記念物의 範疇에 屬한다 (표 1).

韓國의 天然記念物은 1990년대 初까지 生物・地質・動物 등의 分野에서 文化・歷史 등의 人文學的 價値보다는 自然科學的 價値를 優先으로 하여 指定되어 왔으나, 環境保全 分野의 領域擴張 以後 人文學的 價値가 重要한 價値로서 浮上하게 되었다. 韓國의 天然記念物은 現在 419건이 指定되고 있으며, 分野別 指定現況은 표 3과 같다.

名勝은 2000년대 以前까지 거의 注目을 받지 못하였고, 그 指定 件數도 9건에 不過하였다. 그때까지 文化財廳에서는 天然記念物의 指定과 管理에도 턱없이 不足

표 1. 文化財의 類型

有形文化財	建造物, 典籍, 書籍, 古文書, 繪畫, 彫刻, 工藝品 等
無形文化財	演劇, 音樂, 舞蹈, 工藝技術 等 無形遺産
記念物	史蹟: 寺址, 古墳, 貝塚, 城址, 窯址, 遺物包含層 等
	天然記念物: 動物, 植物, 礦物, 地質, 天然保護區域, 自然現象 等
	名勝: 傳統 景觀 및 自然 景觀
民俗資料	衣食住, 生業, 信仰, 風俗, 慣習, 衣服, 器具, 家屋 等 國民生活의 推移를 理解할 수 있는 것.

표 2. 自然文化財의 類型

國家指定文化財		市·道指定文化財		埋藏文化財	
天然記念物	名勝	市·道 記念物	文化財資料	古生物資料	天然洞窟

표 3. 天然記念物 指定現況 (2011 年 8 月 17 日 現在)

植 物					動 物										地 質				天然保護區域			計
老巨樹	樹林地	稀貴食物	自生地	分布限界地	棲息地	渡來地	繁殖地	鳥類	哺乳類	魚類	昆蟲類	爬蟲類	海洋動物	飼育動物	地形·地質	化石	天然洞窟	岩石	山岳	海洋	島嶼	
168	46	19	13	13	9	6	14	26	7	4	3	1	2	4	30	20	18	5	4	2	5	
259					76										73				11			419

표 4. 名勝 指定現況 (2011 年 8 月 17 日 現在)

歷史·文化景觀	溪谷·瀑布景觀	海岸景觀	山岳景觀	水界	島嶼	火山	河川	植生	計
36	11	9	8	5	4	3	2	2	80

표 5. 天然記念物의 性格別 分類 (2011 年 8 月 17 日 現在)

文化歷史天然記念物					生物科學天然記念物							地球科學天然記念物					天然保護區域		計
宗教性	民俗性	生活性	歷史性	記念性	分類學	分布學	遺傳學	生物相	特殊性	代表性	珍貴性	生物史	古生物	地質史	天然洞窟	自然現象	文化+自然	自然科學	
19	82	43	11	35	4	45	17	28	3	17	22	7	20	36	18	1	7	4	

한 行政人力 構造 때문에 國家的 名勝 政策은 堅立조차 하지 못한 狀態였다. 또한 文化財委員會에서도 景觀과 關聯된 專門家가 거의 없어 制度圈 內에서 名勝은 無關

心 속에 放置되어 있었다. 名勝은 “史蹟 및 名勝” 이란 名稱으로 묶여있어 주로 考古學·史學·古建築 등에 대한 關心이 높았고, 景觀의 要所는 附加의으로만 取扱되

었다.

2000年代에 이르러 名勝은 指定을 위한 全國的 基礎 調査가 實施되었고, 指定基準을 再整備하면서 “史蹟 및 名勝”을 “史蹟”과 “名勝”으로 分離하였다. 이렇게 名勝의 指定과 管理를 單一化함으로써 專門家들의 參與幅을 넓혔고, 國民的 關心度を 높였다. 그 후 名勝의 指定件數는 매년 急増하였고, 韓國的 景觀의 保存이라는 命題로 推進되었다. 2011年 8月 現在 韓國의 名勝은 80件이 指定되었으며, 指定現況은 표 4와 같다.

3. 自然文化財 指定基準

(1) 天然記念物

韓國의 天然記念物로 指定된 動物과 植物은 1962년부터 1990년대 初盤까지 生物學的 價値, 稀貴性, 滅種危機 등의 價値가 優先視되어 指定되었다. 그러나 1990年代 中盤 以後 環境保全의 重要性이 浮刻되고, 環境部가 設立되는 過程에서 環境部 公務員들과 市民團體들은 天然記念物을 環境關聯 分野에 包含시켜야 한다고 強力히 主張하였고, 그 후 長期間에 걸친 論爭이 벌어졌다. 결국 2006年度에 이르러서야 天然記念物은 文化財로 管理하는 것이 妥當하다는 國家次元의 合意가 이루어 졌다.

위의 論爭 過程을 거치면서 山林廳 所管이던 滅種危機의 野生動植物에 관한 管理는 環境部에서 擔當하게 되었으나, 文化財廳의 天然記念物, 環境部의 滅種危機 野生動植物의 重複 指定問題는 아직까지 남아있는 實情이다. 文化財廳은 이들 重複指定 問題를 解決하기 위해 많은 論議를 進行하였으며, 그 結果 滅種危機와는 관련이 없는 科學的 記念性을 가지거나 文化·歷史的 記念性을 가진 것들을 天然記念物로 指定하여 環境部와의 重複 指定 問題를 解決하려고 努力하고 있으며, 표 5와 같이 文化性과 自然物의 記念的 價値를 浮刻시키려는 天然記念物 分類方式의 變化도 試圖되고 있다.

또한 天然記念物의 地質分野는 그 동안 洞窟·化石·岩石 등의 一部分野에서만 극히 적은 件數가 指定되어 國民的 關心을 끌지 못하였고, 國家政策으로서도 關心을 받지 못하였다. 이는 文化財 指定基準이 매우 模糊하게 規定되어 있어 文化財 擔當者들과 國民들의 地質遺産에 대한 理解도가 낮았기 때문이다. 文化財廳은 2006년 地質 文化財의 指定基準을 具體化하고, 明確하게 改正하여 地質 文化財의 指定을 活性化하고자 努力하고 있다.

■한국의 천연 기념물의 지정 기준

1. 動物

- 가. 韓國 特有의 動物로서 著名한 것 및 그 棲息地·繁殖地
- 나. 石灰岩地帶·砂丘·洞窟·乾燥地·濕地·河川·瀑布·溫泉·河口·島 等 特殊한 環境에서 生長하는 特有한 動物 또는 動物群 및 그 棲息地·繁殖地·渡來地
- 다. 生活·民俗·衣食住·信仰 등 文化와 關聯되어 保存이 必要한 珍貴한 動物 및 그 棲息地·繁殖地
- 라. 韓國 特有의 畜養動物과 그 產地
- 마. 韓國 特有의 科學的·學術的 價値가 있는 固有의 動物이나 動物群 및 그 棲息地·繁殖地 등
- 바. 分布範圍가 限定되어 있는 固有의 動物이나 動物群 및 그 棲息地·繁殖地 등

2. 植物

- 가. 韓國 自生植物로서 著名한 것 및 그 生育地
- 나. 石灰岩地帶·砂丘·洞窟·乾燥地·濕地·河川·湖水·늪·瀑布·溫泉·河口·島嶼 等 特殊地域이나 特殊環境에서 자라는 植物·植物群·植物群落 또는 숲
- 다. 文化·民俗·觀賞·科學 등과 關聯된 珍貴한 植物로서 그 保存이 必要한 것 및 그 生育地·自生地
- 라. 生活文化 등과 關聯되어 價値가 큰 人工樹林地
- 마. 文化·科學·景觀·學術的 價値가 큰 樹林, 名木, 老巨樹, 奇形木
- 바. 代表的 原始林·高山植物地帶 또는 珍貴한 植物相
- 사. 植物分布의 境界가 되는 곳
- 아. 生活·民俗·衣食住·信仰 등에 關聯된 有用植物 또는 生育地
- 자. 『世界文化遺産 및 自然遺産의 保護에 관한 協約』 제 2 조에 따른 自然遺産에 該當하는 곳

3. 地質·鑛物

- 가. 地殼의 形成과 關聯되거나 韓半島 地質系統을 代表하는 岩石과 地質構造의 重要分布地와 地質 境界線
 - 1) 地板 移動의 証拠가 되는 地質構造나 岩石
 - 2) 地球内部의 構成物質로 解釋되는 岩石이 產出되는 分布地
 - 3) 各 地質時代를 代表하는 典型的의 路頭와 그 分布地
 - 4) 韓半島 地質系統의 典型的인 地質 境界線
- 나. 地質時代와 生物의 歷史 解釋에 關聯된 主要 化石과 그 產地

- 1) 各 地質時代를 代表하는 標準化石과 그 產地
- 2) 地質時代의 堆積環境을 解釋하는데 主要한 示相化石과 그 產地
- 3) 新屬 또는 新種으로 報告된 化石 中 保存 價値가 있는 化石의 模式標本과 그 產地
- 4) 多樣한 化石이 產出되는 化石 產地 또는 그 밖에 學術的 價値가 높은 化石과 그 產地

다. 韓半島 地質 現象을 解釋하는 데 主要한 地質構造·堆積構造와 岩石

- 1) 地質構造：褶曲，斷層，貫入，不整合，柱狀節理 등
- 2) 堆積構造：漣痕，乾裂，斜層理，雨痕 등
- 3) 그 밖에 特異한 構造의 岩石：베개熔岩(Pillow lava)，어란암(Oolite)，球狀構造나 球果狀 構造를 갖는 岩石 등

라. 學術的 價値가 큰 自然地形

- 1) 構造運動에 의하여 形成된 地形：高位平坦面，海岸段丘，河岸段丘，瀑布 등
- 2) 火山活動에 의하여 形成된 地形：단성화산체，화구，칼데라(Caldera)，寄生火山，火山洞窟，환상 복합암체 등
- 3) 侵蝕 및 堆積 作用에 의하여 形成된 地形：砂丘，海濱，갯벌，陸繫島，蛇行川，潟湖，카르스트 地形，石灰洞窟，돌개구멍(Pot hole)，侵蝕盆地，峽谷，海蝕崖，扇狀地，三角洲，砂洲 등
- 4) 風化作用과 關聯된 地形：토르(Tor)，타포니(Tafoni)，암괴류 등
- 5) 그 밖에 韓國의 地形 現象을 代表할 수 있는 典型的 地形

마. 그 밖에 學術的 價値가 높은 地表·地質現象

- 1) 얼음골，風穴
- 2) 샘：溫泉，冷泉，鑛泉
- 3) 特異한 海洋 現象 등

4. 天然保護區域

가. 保護할 만한 天然記念物이 豊富하거나，多樣한 生物·地球科學·文化·歷史·景觀의 特性을 가진 代表的인 一定한 區域

나. 地球의 主要한 進化段階를 代表하는 一定한 區域

다. 重要한 地質學的 過程，生物學的 進化 및 人間과 自然의 相互作用을 代表하는 一定한 區域

5. 自然現象

觀賞的·科學的·教育的 價値가 顯著한 것

(2) 名勝

韓國의 名勝은 1970年度에 처음으로 指定된 이후 2000년도 까지 9件에 불과하여 國家政策으로서의 位相을 전혀 갖추지 못하고 있었다. 文化財廳은 2001年度 全國 名勝目錄 作成을 위한 基礎調査를 처음으로 實施하고，이 調査를 基盤으로 名勝指定基準의 再定立과 함께 積極的으로 名勝指定을 推進하여 2011年 現在 全國 名勝의 指定件數는 80件에 이르고 있다.

■韓國의 명승의 지정 기준

1. 自然景觀이 뛰어난 山岳·丘陵·高原·平原·火山·河川·海岸·河岸·島 등
2. 動物·植物의 棲息地로서 景觀이 뛰어난 곳
가. 아름다운 植物의 著名한 群落地
나. 審美的 價値가 뛰어난 動物의 著名한 棲息地
3. 著名한 景觀의 展望地點
가. 日出·落照 및 海岸·山岳·河川 등의 景觀眺望地點
나. 亭子·樓 등의 造形物 또는 自然物로 이룩된 眺望地로서 마을·都市·傳統遺跡 등을 眺望할 수 있는 著名한 場所
4. 歷史文化景觀의 價値가 뛰어난 名山，峽谷，海峽，串，急流，深淵，瀑布，湖水和 늪，砂丘，河川의 發源地，洞天，臺，岩石，洞窟 등
5. 著名한 建物 또는 庭園 및 重要한 傳說地 등으로서 宗教·教育·生活·慰樂 등과 關聯된 景勝地
가. 庭園，園林，연못，貯水池，耕作地，堤防，浦口，옛길 등
나. 歷史·文學·口傳 등으로 전해지는 著名한 傳說地
6. 世界文化 및 自然遺産의 保護에 관한 協約 제2조에 따른 自然遺産에 該當하는 곳 중에서 觀賞的 또는 自然의 美觀的으로 顯著한 價値를 갖는 것

4. 韓國의 自然文化財 懸案

(1) “文化財”用語에 대한 論議

文化財保護法은 天然記念物과 名勝을 法 制定 當時부터 文化財로 包含하여 保護·管理해 왔다. 그러나 文化財는 文化的 產物이라는 認識에 따라 1990年代 中盤부터 2000年代 中盤까지 環境論者들은 天然記念物과 名勝과 같은 自然物은 文化財보다는 “環境財”의 概念으로 다루는 것이 妥當하다고 主張하였다. 結果的으로 天然記念物과 名勝은 많은 社會的 論議를 거쳐 文化財로서 管理하는 것이 妥當하며，世界的 趨勢와도 符合된다는

論理가 說得力을 가지게 되었다.

그렇지만 天然記念物 및 名勝 關聯 專門家들은 自然物을 “文化財”로 부르는 것이 一部 不適切한 側面도 있다는 점을 認定하고, 그러한 不適切性이 文化財 政策의 發展에 도움이 되지 않는다고 判斷하여 環境財과 區分될 수 있는 用語를 定立할 必要性이 있다고 主張하고 있다. 그리하여 “文化財”를 文化遺産과 自然遺産을 포함하는 “國家遺産”이란 用語로 變更할 것을 要求하였고, 文化財廳은 優先的으로 文化財의 名稱을 “Cultural property”에서 “Cultural Heritage”로 變更하여, 財貨의 概念이 강한 “文化財 (Cultural property)”란 用語를 “遺産 (Heritage)”의 概念으로 變更함으로써 天然記念物과 名勝과 같은 自然遺産을 包含시키고, “世界遺産協約” 등의 國際의 趨勢와 符合되는 “Heritage” 政策을 推進하고 있다.

(2) 國家政策으로서의 位相定立

現在 韓國의 國家指定文化財인 天然記念物과 名勝은 文化財保護法에 있는 指定基準 조차 充足시키지 못하고 있으며, 市道文化財의 指定도 活性化되어있지 못하다. 따라서 全體 自然文化財의 指定件數는 매우 적어 國民의 關心도가 낮고, 國家政策으로서의 位相도 낮은 實情이다. 指定件數가 적은 理由는 다음과 같다.

첫째, 天然記念物과 名勝의 指定基準이 不分明하여 國民의 關心도를 低下시키고 있다. 自然文化財 指定基準이 廣範圍하고 包括的이라서 擔當公務員뿐만 아니라 關聯 專門家들도 어떤 것이 自然文化財의 對象이 되는지 明確하게 理解하고 있지 못하고 있기 때문에 훌륭한 自然文化財 資源이 있어도 이를 文化財로 認識하지 못하는 結果를 招來하고 있다. 文化財廳은 自然文化財의 指定基準을 明確히 하고자 持續적으로 法律改正을 推進하고 있으며, 이러한 努力으로 現在 地質과 名勝 分野에서는 커다란 成果를 거두고 있다. 또한, 動物과 植物分野에서는 文化的·科學的 背景을 強化한 指定基準이 包含되게 되었다.

둘째, 地方自治團體의 文化財 擔當은 行政職 또는 建築 關聯 技術職이 맡고 있는 境遇가 많아 自然文化財에 대한 理解도가 낮다는 것이다. 더욱이 循環補職制가 갖는 잦은 人事移動으로 擔當자들이 自然文化財에 대한 理解를 深化시킬 時間이 없으며, 이를 補完할 수 있는 制度的 裝置도 없었다. 이에 따라 文化財廳은 2000년대 初盤부터 地方自治團體 文化財 擔當자들의 非專門性을 補完하고자 各 市道에 自然文化財 關聯 市道文化財委員會의 設置를 勸奨하고 있으며, 市道文化財委員會에서는 市道記念物の 指定을 活性化하여 國家 및 地域의 自然文化財 指定件數를 擴大시키고 있으며, 自然文化財에 대

한 市民의 關心을 增大시키는 役割을 하고 있다.

셋째, 文化財委員會 委員 大部分은 天然記念物を 環境의·生物的으로만 理解하고 文化的 要所를 考慮하지 않는 專門家들로 構成되어 있어 天然記念物 및 名勝의 指定 多樣性を 低下시키는 要因이 되고 있다. 이에 따라 文化財廳은 自然文化財 指定基準을 細分化하여 文化·歷史·自然史를 포함하는 遺産概念의 指定基準을 強化하였고, 觀光·歷史·地理學 등의 多様な 分野의 專門家들이 文化財委員會에 包含될 수 있도록 하였다. 이로서 自然文化財의 分野가 多樣化되었고, 指定件數가 擴大되는 結果를 가져왔다. 文化·歷史 分野의 導入은 生物 中心의 環境政策과 差別化되어 部處 간 摩擦을 最小化하였고, 國家政策으로서의 位相을 確保하는 데 도움이 되었다.

(3) 住民 및 地方自治團體 參與와 活用政策의 強化

1980년대 初盤까지 韓國은 全國土의 開發이 本格的으로 進行되지 않은 狀態에서 文化財 指定에 따른 私有財産의 侵害는 큰 問題가 되지 않았다. 그러나 地方自治團體의 權限이 強化되고, 都市産業化가 活潑해지면서 私有財産의 侵害에 대한 國民의 反撥이 深化되어 2000년대 初盤부터는 私有財産의 侵害를 통한 文化財 指定은 거의 不可能하게 되었다. 그전까지 韓國의 文化財 保存은 絶對保存이라는 概念으로 管理되어왔고, 都市産業化가 活潑하지 않았을 때에는 住民反對가 거의 없었다. 그러나 都市産業化가 進行되며, 私有財産의 價値가 上昇하고, 開發利益에 대한 期待가 增加됨에 따라 天然記念物과 名勝뿐만 아니라 모든 文化財의 指定 시 利害關係者들로부터 敵對的 反撥을 불러일으키게 되었다. 文化財 擔當者들은 民願을 憂慮하여 指定을 回避하거나, 地方自治團體의 各種 開發計劃을 意識하여 指定을 妨害하는 境遇까지 發生하게되었다. 이에 따라 自然文化財에 대한 政策은 絶對規制 政策에서 住民에게 惠澤이 가는 政策으로 轉換하지 않으면 自然文化財 保存自體가 어려운 環境이 되었다.

過去 國家에서는 自然文化財 指定時 財産權에 關係없이 指定하면 되었으나, 現在는 文化財 指定時 私有財産權 保護를 위해 土地를 買入하거나, 各種 便宜施設을 設置하는 등 利害關係者들의 同意를 얻는 努力을 하고 있다. 이와 함께 自然文化財 指定管理時 地域住民에게 利益이 갈 수 있도록 하는 事業計劃 堅立, 觀光要素 開發 등 各種 住民 支援 事業을 實施하여 地域民들의 活用 및 呼應도를 높여 나가고자 努力하고 있다. 事例로 名勝으로 指定된 南海 다랑이논마을은 指定 當時 住民들의 積極的인 反對가 있었으나, 다랑이논을 維持하기 위한 事業을 住民들이 直接 施行하게 하여 住民들에게 惠澤이

갈 수 있도록 하였고, 各種 生産品 販賣 및 觀光事業 등을 支援함으로써 住民들의 自矜心を 높여 文化財 指定에 대한 不滿을 解消하였다.

(4) 國家自然遺産 保存을 위한 研究體系의 構築

韓國에서 天然記念物과 名勝이 文化財로 指定된 1962年 以後 40餘 年間 自然遺産에 대한 調査·研究을 할 수 있는 機關이 없었기 때문에 自然文化財의 科學的管理는 不可能하였다. 1990年代 中盤 以後 天然記念物과 名勝에 대한 社會的 與件의 變化에 따라 天然記念物과 名勝의 科學的·體系의 管理政策의 堅立이 必要해 졌다. 이에 따라 文化財廳은 2006年 4月 國立文化財研究所 내에 自然文化財研究室을 設立하고, 天然記念物센터를 運營토록 하였다.

天然記念物센터는 全國의 天然記念物과 名勝을 調査研究하고, 自然遺産에 대한 國民 弘報, 展示, 教育프로그램 등을 運營하며, 國家指定文化財와 市道 指定文化財의 管理에 必要한 資料들을 提供하고 있다.

天然記念物 센터에서는 地方自治團體의 協助를 통해 全國의 天然記念物로 指定된 動物死體들을 收集하고 있으며, 獸醫科學研究所, 大學研究所 등과 協助하여 各種 自然遺産 關聯 研究을 遂行하고 있다.

또한, 化石 등 地質分野 研究 結果物과 各種 工事過程에서 發見된 化石들도 埋藏文化財保護法의 規定에 따라 收集하고 있으며, 이들은 天然記念物센터의 研究資料 및 展示資料로 活用하고 있다.

天然記念物센터는 現在 24名의 研究員과 13名의 施設管理要員, 27名의 自願奉仕者들로 運營되고 있으며, 向後 國立自然遺産研究所로 特化하여 文化財廳의 自然遺産 政策研究機關으로 發展시켜 나갈 計劃을 推進하고 있다.

5. 맺음말

韓國의 初期 自然文化財는 주로 生物的 價値, 滅種危機 與否, 自然科學의 價値에 따라 指定되어 왔으나, 1994年 環境部 設立 등의 政府機能의 變化로 現在는 自然의 記念物, 原生的 文化遺産, 歷史的 實證物, 自然史의 證據物, 鄉土的 象徵物, 生物學的·文化的 代表性 등 科學的·人文學的 學術價値가 높은 것들을 對象으로 保存하려는 努力을 기울이고 있다.

韓國의 天然記念物과 名勝의 性格은 다음과 같이 定義되며, 環境의 概念의 自然物과 差別化된다.

첫째, 感歎과 驚異의 對象으로서 自然의 記念物이다.
둘째, 民族文化 및 精神生活의 母體이다.
셋째, 先祖들이 살아온 모습을 담고 있는 歷史의 實證物이다.
넷째, 地球生成過程 등 自然史를 밝혀주는 證據物이다.
다섯째, 住民들의 故郷에 대한 鄉愁를 끌어내는 鄉土的 象徵物이다.
여섯째, 地域의 象徵性を 가지며, 自然科學과 文化的 代表性을 가지고 있다.

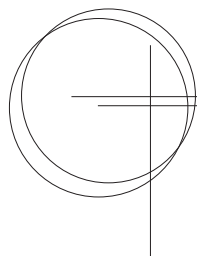
現在 韓國의 自然遺産 保存의 目標은 文化·教育·科學 등 文化 및 自然史 資料의 保存, 自然文化財를 통한 文化鄉愁 機會의 擴充, 傳統景觀의 保存을 통한 國土景觀의 特性化 및 活用基盤 構築, 自然文化財 關聯 專門分野의 學問的 發展 圖謀, 傳統文化 生物資源의 保存 및 活用基盤 構築에 두고 있다.

또한 管理政策에 있어서는 過去의 規制 一邊倒의 政策을 벗어나, 全國의 自然遺産에 대한 研究를 強化하고, 住民 및 地方自治團體의 參與를 높여 自然遺産 保存에 대한 國民의 共感帶를 높이는 方向으로 管理政策을 堅立해 나가고 있다.

예를 들어 天然記念物로 指定된 老巨樹는 傳統的으로 住民들과 함께 生活해온 文化要素지만, 文化財로 指定되는 瞬間 住民과 隔離되는 結果를 빚어왔다. 그것은 住民들로부터 文化財를 隔離시키고, 住民들에게 自矜心を 주기는커녕 엄청난 골칫거리로 남게 하여 文化財 指定에 대한 住民들의 極烈한 反撥만을 낳게 되었다. 이에 따라 文化財廳은 老巨樹 周邊을 마을公園化하거나, 마을整備事業을 支援하는 등 住民들의 마음이 天然記念物로부터 떠나지 않도록 不斷한 努力을 기울이고 있다. 이러한 發想의 轉換은 政策 擔當者들이 國民들에게 支持받지 못하는 文化財는 결국 國家의 遺産이 될 수 없다는 哲學의 基盤에 따른 것이다.

【참고문헌】

- 1) 문화재청 (2011): 천연기념물 지정현황
- 2) 문화재보호법 훈령 (2009): 천연기념물 노거수 및 보존관 리 지침
- 3) 이 위수 (2009): 「한국 명승의 현황 및 전망」, 『국제학술 심포지엄－명승의 현황과 전망』, 국립문화재연구소, p.p. 291-320



「コウノトリ悠然と舞う ふるさと」をめざして

松井 敬代（豊岡市教育委員会文化振興課／主幹）

1. はじめに

自然的文化財という用語は今回初めて耳にしたが、これに含まれると想定されるものとして、文化財保護法で定義されている渓谷や海浜、山岳などの自然系の名勝や天然記念物、また、国立・国定自然公園、森林生態系保護地域、また世界自然遺産などがあげられよう。

これらを豊岡市にあてはめてみると、指定文化財では国指定の特別天然記念物コウノトリ、特別天然記念物オオサンショウウオ、天然記念物玄武洞、県指定の栃本の溶岩瘤、絹巻神社の暖地性原生林、名勝切浜の「はさかり岩」など、50件以上ある。これらのうちいくつかは山陰海岸国立公園内に、また山陰海岸ジオパークのジオエリアに含まれており、このほか国内希少野生動植物種の生息地等保護区である大岡アベサンショウウオ生息地保護区、ラムサール条約登録湿地として円山川下流域・周辺水田が指定されるなど、自然環境がとても豊かな地域である。まず、これらを育む豊岡の位置と地形の特徴を押さえておきたい。

2. 母なる川、円山川とともに生きる

豊岡市は、兵庫県北部に位置する人口8万5千人〔平成24年（2012）4月現在〕のまちである。平成17年（2005）4月の市町村合併によって、兵庫県内最大の面積を誇る市となり、県全体の8.3%を占めている。北は日本海に面し、南には中国山地の東端である標高1,074.4mの蘇武岳を頂き、市のほぼ中央には円山川が北流して日本海に注ぐ。市域面積697.66㎡の79.3%を森林が占めており、山岳部は水ノ山後山那岐山国定公園に、海岸部は山陰海岸国立公園に指定され、多様な四季を織りなす自然環境に恵まれている。

豊岡市の中央を流れる円山川は、その河口から10km遡っても高低差がほとんどない特異な河川である。中下流域では、河川勾配が1／9,000とほぼ水平状態であるため、風の強い日には川面が鏡のように静かで、潮の満ち干や海から吹き上げてくる風などで、上流に向かって水が逆流することも毎日のように見られる。したがって

円山川上流から勢いよく流れてきた水は、豊岡盆地に入ってスピードを極端に落とす。河口から6.5km、ちょうど玄武洞が位置する付近では両側の山が迫り、ボトルネック状の地形を呈していることから、大量にたまった水が日本海に吐き出されずに豊岡盆地に滞留して溢れ、たびたびのように水害を起こしてきた。

未だ記憶に新しい平成16年（2004）10月の台風23号では円山川本流だけではなく、その支流である出石川、稲葉川、太田川等も氾濫し、堤防の決壊による増水で死者を出すなどその流域に甚大な被害があった。その直後から始められた災害復興事業は、将来にわたり最小限の被害で食い止められるよう大規模な工事がおこなわれており、開始から6年以上経った現在でもまだ終わっていない。

有史以来、円山川の氾濫とのたたかいは、流域住民の苦悩の歴史そのものであった。近くでは明治43年（1910）から始まり、昭和9年（1934）まで25年間も続いた円山川大改修、古くは江戸後期に出石藩が行った出石川合流部での河畔林植林と大保恵堤の築造など、円山川の河川改修は幾度も繰り返し行われてきている。



図－1. 来日山からみた豊岡盆地
（写真左下に玄武洞が位置する。）

（１）出石川のオオサンショウウオ

台風23号で被害の大きかった出石川では、農業用水確保のために築かれたいくつかの井堰直下で、遡上できなくなった特別天然記念物オオサンショウウオが多数発見された。出石川復旧工事の施工にあたった兵庫県豊岡土木事務所では、工事着工前にそれらを一時避難させ、工事終了後、生息環境が整ったうえで元の場所に戻すことにした。当時事業を直轄していた災害復興事業室では、研究者の指導のもと、区域内の小学生を対象にした「出石川ジュニア・リバーズ」を立ち上げ、オオサンショウウオの保護を主眼にしながら、体験学習として川やその周辺の生き物観察、環境教育などを実践した。「僕らの水辺再発見マップ」という環境マップを作成した高橋小学校は、国土交通省が設けた川の日制定10周年記念優秀賞を受け、体験学習発表会を開催する機会も与えられた。そのほか、オオサンショウウオを題材にした展示会や学習会が市内外で開催された。

災害復興事業室は、保護したオオサンショウウオにマイクロチップを埋め込み、放流後も個体追跡調査と共に環境生息調査も継続して行っている。災害復旧工事での捕獲数は500頭を超え、事業が完了して役目を終えた災害復興事業室が持っていたデータは、現在、豊岡市教育委員会にも引き継がれ、その後の生息調査の基礎資料としている。

出石川河川改良復旧工事には、オオサンショウウオも住める環境対策工法が積極的に取り入れられている。一例を挙げると、護岸に巣穴ブロックを設け、部分的に巨石を積み上げてオオサンショウウオが営巣しやすい環境とし、また井堰を緩傾斜階段式落差工に変更し、遡上できない落差を解消して一部には魚道を設けるなどの改良がなされた。このように、行政と教育の両面でオオサンショウウオを守っていく体制が整えられた意義は大きい。

（２）コウノトリとの約束

豊岡市では、めざすまちの将来像を「コウノトリ悠々と舞う ふるさと」とし、それを実現するために、①安全と安心を築く②地域経済を元気にする③人と文化を育てるために、コウノトリを核とした先進的な取組を豊岡モデルとして世界に発信することを基本構想のテーマに掲げている。

ア) コウノトリ野生復帰

コウノトリは、日本では一度絶滅した鳥である。かつて円山川流域には多くのコウノトリが生息し、湿潤な土地を多く持つ豊岡盆地は、最後まで野生のコウノトリが営巣していた場所でもある。豊岡市でのコウノトリ野生

復帰の取り組みを紹介する有名な白黒のポスターには、ひとりの女性が5頭の但馬牛を水浴びさせる場面と、同じ場所で12羽のコウノトリが餌を探している様子とが映っている。昭和35年（1960）の円山川での一場面を切り取ったものだ。同じように「つるボーイ」といって、田んぼの稲を踏み荒らすコウノトリに危害を与えず追い払う農事や、コウノトリの営巣する松の木のそばに茶屋を設け、瑞鳥として絵葉書の題材にしてきたなど、コウノトリが日常風景の中に溶け込んでいた。

ところが、その後行われた圃場整備や農薬散布などによって生息環境が悪化し、見る間に数を減らして絶滅の危機に直面してしまった。昭和40年（1965）、絶滅の危機に瀕していたコウノトリを救う最後の手段として、野生のコウノトリを捕獲して人工飼育する道を選び、飼育下で繁殖を何度も試みるがうまくいかず、昭和46年（1971）には保護した野生個体がすべて死んで、野生のコウノトリはついに絶滅した。保護増殖センターで行っていた人工飼育もうまくいかず、孵化しない年月が20年続いたが、昭和60年（1985）にハバロフスクから贈られてきた6羽から孵化したヒナから25年目にしてようやく繁殖に成功し、以後増殖活動が軌道に乗って毎年ヒナが育って飼育数が増えていった。

100羽を超えたところで、かつてひとの都合で捕獲して繁殖させるという手段をとり彼らの自由を奪った代わりに、必ずもう一度空を悠然と舞わせるというコウノトリとの約束を果たすため、平成17年（2005）に放鳥に踏み切った。放鳥したコウノトリのペアから生まれたヒナが初めて巣立つまでに、実に46年もの歳月が必要だった。現在では、野外で巣立った鳥を含め60羽のコウノトリが大空を舞っている。

イ) コウノトリとの共生

コウノトリが野外で生きていくためには、周辺環境を整えなければならない。そこで豊岡市では、コウノトリも住める豊かな環境をつくるために、「豊岡エコバレー」を目指して、豊かな森をつくり、多様な水辺を再生してネットワークさせ、農業をしながら生き物を育むことで、「自然環境」の保存・再生・創造を目指して進めている。間伐材をペレットに加工し、バイオマス燃料として利用する、円山川水系自然再生・湿地再生をする市民団体や地域団体を育てネットワーク化して情報共有する、冬季湛水田を増やし小中学生に田んぼの生きもの調査を実践するなど、様々な取組を進めている。

一方、ふるさとを見つめ直し学び楽しみ、楽しみながら省資源型の暮らしを再現し、コウノトリを支える豊岡の取り組み・歴史文化を紹介し、豊岡製品のブランド力



図－２．コウノトリの郷公園



図－３．整備された玄武洞

を高めることによって、「文化環境」の保存・再生・創造も実践していこうとしている。生きもの共生の日を設け、子どもを自然に親しませる子どもの野生復帰大作戦、昔ながらの建築法を学ぶ施設豊岡エコハウス、東京都心に開店した豊岡市アンテナショップ、都心からの観光客を呼び込むためのツールのひとつコウノトリツーリズムや放棄水田をコウノトリが餌場にするジオトープに変身させた田結地区のガイド、案ガールズ、豊岡産品のブランド力を高めるコウノトリの舞・コウノトリ育むお米など、こちらも多様な取組を展開されている。

自然環境と文化環境を両輪に据えて、環境と経済が共鳴する『小さな世界都市』となることを目標に歩んでいこうとしている。まさに人とコウノトリとの共生をめざす試みである。

様々な努力と成果が認められて平成24年(2012)7月、「円山川下流域・周辺水田」560haが国際的に重要な湿地として、ラムサール条約登録湿地に認定されることになった。水田が湿地登録の対象になったのは、初めてのことである。「円山川下流域・周辺水田」では絶滅危惧種のコウノトリの生息環境を守るため、水田では環境創造型農業である「コウノトリ育む農法」に取り組む農家があり、環境市民団体が管理するコウノトリの繁殖する人口湿地「ハチゴロウの戸島湿地」など、様々なタイプの湿地が存在している。エリア内にはコウノトリ以外にも絶滅危惧種のヒメシロアサザ、在来種のおおアカウキクサなどの水生植物やメダカ・イトヨなどの魚類、ヒメマイトトンボなどの昆虫類などが生息しており、湿地が多様な生物相を支えている。

3. 玄武洞と山陰海岸ジオパーク

(1) 玄武洞とその整備

豊岡市周辺では江戸時代から玄武岩を採石し、目前を流れる円山川の舟運で、家の礎石や庭石、石垣などに利用してきた。身近には、どの家庭にも漬物石として玄武

岩を1個保有しているとも言われている。また、平安時代から二見浦として歌に詠まれるほど風光明媚な場所でもあった。江戸幕府の儒学者であった柴野栗山が、湯島(現在の城崎温泉)に向かう道中、ここに立ち寄り「玄武洞」と命名したといわれている。

明治44年(1911)には「玄武洞保勝会」が発足して採石を中止し、美しい柱状節理を見せる名勝地にうまかわった。前年対岸に鉄道が敷設され玄武洞駅ができたことによって、隣駅であった城崎温泉からの観光客が押し寄せ、一大観光地に成長していった。また、大正8年(1919)に制定された史蹟名勝天然紀念物保存法に従って全国で行われた史蹟名勝天然紀念物調査によってその価値が認められると、さらに観光客が増加していった。

大正14年(1925)に起きた北但大震災によって、玄武洞が崩落し洞が埋まってしまったが、整備のため同じく壊滅的な被害があった城崎温泉街の中央を流れる大谿川の改修に再利用して川護岸とした。この護岸は弓形橋と共に、城崎温泉の景観を形作っている。その後の度重なる小崩落や経年変化によって少しずつ節理が埋まってきたため、玄武洞と青龍洞を平成16年(2004)度から6年かけて文化庁の国庫補助事業で整備を実施した。整備は、できるだけ柱状節理を見せるように埋まっている個所を掘り起こし、景観を遮る樹木や草木類の除去を中心に実施し、並行して指定区域外の白虎洞、南北朱雀洞も国交省の補助を受けて整備した。

(2) 山陰海岸ジオパークの活用

玄武洞の整備途上で、山陰海岸国立公園を核に鳥取県・兵庫県・京都府の1府2県で世界ジオパークの加盟認定を目指そうという機運があがった。山陰海岸国立公園は、砂丘や洞門、洞窟、奇岩などの岩石海岸のほか、足跡化石やポットホール(甌穴)などがあり、まさに「地形・地質の博物館」ともいわれている。兵庫県内では、国指定天然紀念物「玄武洞」「鎧の袖」、名勝「香住海岸」、名勝及び天然紀念物「但馬御火浦」をはじめ、多数の県

指定・市町指定文化財が一部となっている。

平成22年（2010）、晴れて世界ジオパークへ加盟認定された山陰海岸ジオパークには、豊岡市では山陰海岸国立公園内の玄武洞、日和山海岸、竹野海岸などのほか、内陸部の神鍋高原、円山川下流域の城崎温泉やハチゴロウの戸島湿地なども入れられた。行政と観光協会を始めとする民間団体、また市民団体が主体となってその保護や周知、ジオツーリズムを展開している。

4. コウノトリ悠然と舞うふるさとの姿とは

文化財保護法でいう天然記念物は、動物、植物、地質・鉱物をいい、それぞれ種や個体を対象にした保護が第一義である。豊岡市では現在、国2件、県12件、市21件の計35件の天然記念物が指定されており、自然系の名勝を併せると50件以上になる。それらを保護し、保全し、周知や公開などで活用を図っている。

一方、コウノトリとの共生やラムサール条約登録湿地の認定によって、自然環境保全や生物多様性への取り組み、環境経済戦略の推進などが行われている。ジオパークでは、日本海の岩礁が良好な漁場になり松葉ガニと呼ばれているズワイガニや紅ズワイガニの漁、火成活動の影響を受けた温泉資源である城崎温泉、地形を利用した高原リゾート神鍋山など人間の営みと深く結び付いて、それらの保護も大切にしながら、ネットワークやツーリズム、またそれに関わるさまざまな取り組みを総合的にを行っている。

文化庁の指針として、平成19年（2007）度に「歴史文化基本構想」や平成20年（2008）度の「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」など、地域における文化財の総合的な取り組みを推進していこうという方向性が示された。豊岡市でもコウノトリとラムサール湿地、ジオパークなどへの取り組みが先行しているように思われるが、遅ればせながら豊岡市独自の歴史文化基本構想の策定を目指すことになった。兵庫県下で一番広い面積を有し、多様な自然環境、文化環境を育んできた地域として、まず、文化財悉皆調査・詳細調査を実施して分析し、周辺環境も含めて総合的に把握して、豊岡市における空間的・時間的つながりを明確にしていきたい。そのなかから、今までと違った豊岡市像を見いだせる可能性にも期待したい。

振り返ってみるとコウノトリとの共生もラムサール登録湿地やジオパークなどの先行する取り組みも、閉塞感がある地方ではありがちなことだが、どちらかという行政主導で進めてきている。今はまだ自立が弱い、民間団体や市民団体などと、ともに考え、取り組み、まち

づくりに活かしていかなければ本物の観光振興や地域の活性化は図られないと考えている。

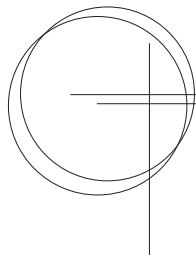
実は、豊岡市には2枚の観光鳥瞰図が知られている。1枚は「躍進の城崎温泉観光図」で、昭和10年（1935）に描かれたものである。北但大震災から復興した城崎温泉に観光客を呼び戻すため、温泉の湯けむりがそこかしこに立ちのぼり、水上飛行場やスキー場で遊ぶ人々、玄武洞、東山公園などの観光地が強調して描かれている。もう1枚は「豊岡市鳥瞰図」で、昭和37年（1962）頃の豊岡市街地を中心に描かれたものである。絵中にはコウノトリの営巣地が描かれ、そのころ新設された病院や公共施設が、整然と配された街区とともに描かれている。どちらも今後も町が発展していくという希望をこめて描かれたものである。

また、北但大震災直後に、まちのシンボルとして最初に築かれたRC構造の豊岡町役場（現在の豊岡市役所本庁舎）を壊して新たな市庁舎を建造するのではなく、わざわざ曳家をして復興のシンボルとして残すことを選択した。しかも、のちに豊岡町から豊岡市になった時に増築した木造の3階も復元した。長い間に街の景観になっているからという理由からである。これはひとつの方向性を示唆しているといえよう。

豊岡市はめざすまちの将来像を「コウノトリ悠然と舞うふるさと」とし、自然や歴史、伝統や文化を大切に、そこから地域への深い愛着を感じ、夢と希望を描きながら元気と賑わいがあふれるまちをめざしている。そして、地方の小さな都市（まち）であっても、世界の人々から尊敬され、尊重される『小さな世界都市』となることを目標にしている。その素材は原石のようにたくさんころがっている。あとはそれを総合的に把握し、どう活かすかにかかっていると言えよう。

【参考文献等】

- 1) 『豊岡市史（上巻）』1991.3 豊岡市
- 2) 『豊岡市史（下巻）』1993.3 豊岡市
- 3) 『豊岡市総合計画（前期基本計画）』2007.3 豊岡市
- 4) 『豊岡市総合計画（後期基本計画）』2012.3 豊岡市
- 5) 『要覧』2004.3 豊岡市立コウノトリ文化館
- 6) 『平成23年度要覧』兵庫県立コウノトリの郷公園
- 7) 『コウノトリ再び空へ』2006.1 神戸新聞総合出版センター
- 8) 鷺谷いずみ編『コウノトリの贈り物』2007.11 地人書館
- 9) 小野泰洋・久保嶋江実『コウノトリ、再び』2008.8 エクスナレッジ
- 10) 『天然記念物玄武洞保存整備事業報告書』2010.3 豊岡市



황새가 유유히 춤추는 고향

마쓰이 다카요 (도요오카시 교육위원회 문화진흥과 주간)

1. 도요오카시의 위치와 지형

도요오카시는 효고현 북부에 위치하는 인구 8만 8천 명의 도시이다. 북쪽으로 동해에 면해 있고, 남쪽으로는 주고쿠산지 [中国山地] 동쪽 끝에 걸쳐있으며, 도시 중앙에는 마루야마강 [円山川] 이 동해로 흐르고 있다. 시 전역은 79.3%가 삼림이고, 해안에는 산인 [山陰] 해안국립공원, 산악에는 효노센우시로야마나기산 [氷ノ山後山那岐山] 국정공원이 지정되어 있으며, 사계가 빗어 내는 다양한 자연환경의 혜택을 입고 있다.

(1) 만물의 근원인 강, 마루야마강 [円山川]

도요오카시의 중앙을 흐르고 있는 마루야마강은 하구에서 10km 정도 상류로 거슬러 올라 가더라도 하구와의 낙차가 1m 밖에 나지 않는다. 마루야마강의 중하류 지역의 하구 구배는 1만분의 1 정도로 거의 수평상태이기 때문에 바람 없는 날에는 강 표면이 거울과 같이 고요하다. 마루야마강 상류부터 힘차게 흘러 내려온 물은 도요오카분지로 들어서면서 유속이 갑자기 떨어진다. 더구나 하구에서 6.5km 떨어진 겐부 [玄武] 동굴 근처에는 산이 강의 양쪽 하안까지 뻗어 내려와 병목 같은 지형을 형성하여 많은 양의 강물이 동해로 빠져나가지 못하고, 고여 있다가 넘쳐 종종 수해를 일으키고 있다.

그런데 저습지에 생육하는 키버들이 마루야마강에 번성하여, 키버들을 이용한 공예품이 도요오카의 주요 생산품이 되어 현재의 가방산업으로 발전하게 되었다.

(2) 마루야마강과의 싸움

2004년 태풍 23호 때 마루야마강 본류뿐만 아니라 지류인 이즈시강 [出岩江], 이난바강 [稲葉川], 오타강 [太田江] 등도 범람하여 큰 피해를 주었다. 7년 이상 걸린 피해복구사업은 지금도 일부에서는 진행하고 있다. 마루야마강의 범람을 방지하고자 하는 사업은 매우 이전부터 있었는데 다이쇼시대 (1912-1926) 후기부터 쇼와시대 (1926-1989) 초기에 걸쳐 마루야마강 개수를 시행하였고, 그전인 에도시대 후기에는 이즈시 [出岩] 번 [藩] 이 실시한 이즈시강 합류부의 오보에 [大保恵] 제방 축조 등이 있다. 이렇게 마루야마강 유역 주민은 강과의 싸움의 역사를 갖고 있다.

2. 일본장수도롱뇽과 황새의 복원

(1) 이즈시강 하천개량복구공사와 일본장수도롱뇽

태풍 23호 피해가 컸던 이즈시강에서 몇 곳의 보가 손상 되어 상류로 올라갈 수 없게 된 특별천연기념물인 일본장수도롱뇽 (*Andrias japonicus*) 이 다수 발견되었다. 복원공사를 담당하였던 효고현 도요오카토목사무소에서는 공사 착공 전에 일본장수도롱뇽을 다른 곳으로 대피시켰다가 공사 완료 후에 원래의 장소로 되돌리기로 하였다. 당시 사업을 담당하였던 시의 재해복구사무실에서 구역의 초등학교와 연구자들과 함께 「이즈시강 유니버 리버즈」를 계획하고, 일본장수도롱뇽 보호를 중심으로 초등학교 체험학습의 일환으로서 생물관찰과 조사를 실시하였다. 생포한 일본장수도롱뇽에는 마이크로칩을 삽입하였고, 방류 후 환경서식조사를 실시하였다. 그 수는 500마리를 넘는데 데이터는 현재 도요오카시교육위원회에서 보관·관리하여 서식조사의 기초자료로 삼고 있다. 이즈시강 하천개량 복구공사는 일본장수도롱뇽도 살 수 있는 환경대책공법을 적극적으로 도입하고 있다.

(2) 「황새가 유유히 춤추는 고향」조성계획

도요오카시는 지역이 목표로 하는 장래상을 「황새가 유유히 춤추는 고향」으로 삼고, 이를 실현하기 위해 ① 안전과 안심의 구축 ②지역경제 활성화 ③사람과 문화의 육성을 위해 황새를 핵심으로 한 선진적인 시도를 도요오카 모델로서 널리 알리는 것을 기본구상의 테마로 삼았다.

1) 황새의 야생 복원

황새는 일본에서 한 번 절멸한 적이 있다. 1965년 절멸의 위기에 처해 있던 황새를 구하는 최후의 수단으로서 야생의 황새를 포획하여 인공사육하는 방법을 선택하였다. 40년 후인 2005년 최초로 방사에 성공하였으나, 그 동안 포획한 야생 개체가 죽어 인공사육이 순조롭게 진행되지 않아 인공 부화하지 못한 세월이 20년이나 계속되었다. 1985년 하바로브스크에서 기증된 6마리가 부화에 성공하여 성체로 성장하게 되었고, 제 2세대, 제 3세대를 거쳐 사육 두수가 100마리로 증가한 시점에서 황새와의 약속을 지키기 위해

방사를 하게 되었다. 현재는 야생에서 둥지를 튼 황새를 포함하여 약 48마리의 황새가 하늘을 누비고 있다.

2) 황새와의 공생

황새가 야생에서 살아가기 위해서는 주변 환경의 정비가 필요하다. 그래서 도요오카시에서는 황새가 살 수 있는 풍요로운 환경을 만들기 위해 숲을 울창하게 가꾸고, 다양한 수변을 재생시켜 네트워크화하였으며, 농업을 하면서 생물을 육성시키는 「자연환경」의 보존·재생·창조를 목표로 하고 있다. 한편으로는 지역을 돌이켜 보고, 배우고 즐기며, 즐기면서 자원 절약형의 생활을 재현하고 있다. 도요오카시의 황새 보호에 대한 여러 가지 시도와 역사·문화를 소개하고, 도요오카 산물의 브랜드력을 높이기 위한 '문화환경'의 보존·재생·창조를 실천하고 있다. 이들을 두 개의 축으로 삼아 환경과 경제가 공명하는 '작은 세계도시'를 목표로 발전시켜나가고 있다. 실로 사람과 황새의 공생이라고 할 수 있다.

3. 겐부 동굴과 산인 해안 지오파크

(1) 겐부 [玄武] 동굴의 정비

도요오카시 일대는 에도시대부터 현무암을 채석하여, 마루야마강을 이용한 수운으로 가옥의 초석, 정원석, 돌담장 등을 운반하여 왔다. 이것은 매우 유명하여 어떤 집이라도 도요오카산 현무암 1개 정도는 있을 정도라고 했다. 또한 헤이안시대 (794~1192) 부터 문인들이 후타미노우라 [二見浦] 라고 부르며 시를 지어 예찬할 정도로 훌륭한 풍광을 자랑하던 곳이었다. 메이지시대 말기 현무암 채석을 중지하고, 아름다운 주상절리를 보여주는 관광지로서의 정비계획이 세워졌다. 때마침 건너편 강가에 철도가 부설되어 겐부동굴역이 생기고, 이웃 역인 기노사키 [城崎] 온천의 관광객이 몰려와 일대가 큰 관광지가 되었다. 그 후 호쿠탄 [北但] 대지진과 침식변화에 의해 조금씩 절리가 없어지는 경우가 발생하여 겐부동굴과 세류동굴 [靑龍洞] 을 2003년부터 6년간 문화청 국고보조사업으로 정비를 실시하였다. 동시에 문화재로 지정 받지 않은 밭코동굴 [白虎洞], 남쪽 북쪽의 슈자큐동굴 [朱雀洞] 도 국토교통성의 보조를 받아 정비되었다.

(2) 산인 [山陰] 해안 지오파크의 활용

겐부동굴 정비공사 진행 중에 산인해안국립공원을 핵심으로 하는 도토리현, 효고현, 교토부 등 1부 2현이 세계지오파크 가맹 인증을 받자는 분위기가 고조되었다. 산인해안국립공원은 사구·동굴입구·동굴·기암 등의 암석 해안 외에도 발자국 화석·포트홀 (pot hole) 등의 다양한 요소들이 존재하여 '지형·지질의 박물관'이라 불리고 있다. 또한 효고현내에서는 국가지정천연

기념물인 '겐부동굴', '요로이노소테 [鎧の袖] 절벽', 명승인 '가즈미 [香住] 해안', 명승 및 천연기념물인 '다지마미호노우라 [但馬御火浦] 해안'을 비롯한 다수의 현(縣) 지정 및 시정(市町) 지정문화재가 분포하고 있다.

2010년 세계지오파크 가맹인정된 산인 해안 지오파크는도요오카시의 경우 산인해안국립공원에 위치한 겐부동굴, 히요리야마 해안, 다케노 해안 외에 내륙의 간나베 고원, 마루야마강 하류역의 기노사키 온천, 하치고로노도시마습지 등이 포함되어 있다. 행정·관광협회를 비롯한 민간단체 또는 시민단체가 주체가 되어 지오파크의 보호와 홍보, 지오투어리즘을 전개하고 있다.

4. 천연기념물과의 공존, 활용에 대하여

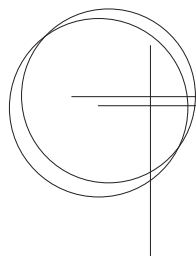
문화재보호법의 천연기념물의 개념은 동물, 식물, 지질·광물을 말하며, 각각의 종이나 개체를 대상으로 한 보호를 우선으로 하고 있다. 도요오카시에서는 현재, 국가지정 2건, 현지정 12건, 시지정 21건 등 총 35건의 천연기념물이 있으며, 자연형의 명승 3건이 지정되어 있다. 지정된 문화재에 대해서는 보호, 보전, 홍보, 공개 등의 활용계획이 수립되어 있다. 한편으로 황새와의 공생이나 지오파크는 보호를 우선시하면서 네트워크, 투어리즘, 이들과 관련 있는 다양한 사업을 종합적으로 실시하는 것에 주안점을 두고 있다.

정부는 2007년 '역사문화 기본구상', 2008년 '지역의 역사적 풍치의 유지 및 향상에 관한 법률' 등을 제정하여 지역의 문화재를 종합적으로 검토하여 추진해 가고자 하는 방향을 제시하였다.

도요오카시에서는 황새와 지오파크 관련 검토가 선행되고 있는 것처럼 보이지만 일부를 제외하고는 현재 행정 주도로 진행되고 있다. 민간단체나 시민단체 등과 함께 생각하고, 대처하며, 창조해 나가지 않으면 지속가능한 관광 진흥과 지역 활성화로 이어지지 못할 것이다.

【참고문헌】

- 『도요오카 시사 (市史) 상권』, 1991.3, 도요오카시
- 『도요오카 시사 (市史) 하권』, 1991.3, 도요오카시
- 『도요오카시 종합계획 (전기 기본계획)』, 2007.3, 도요오카시
- 『도요오카시 종합계획 (후기 기본계획)』, 현재 진행 중
- 『요람』, 2004.3, 도요오카시립황새문화관
- 『2011년도 요람』, 효고현립 황새의 고향 공원
- 『황새여 다시 창공으로』, 2006.1, 고베신문종합출판센터
- 와시타니 이즈미 편, 『황새의 선물』, 2007.1, 지인서관
- 오노 하스히로, 구보시마 에미, 『황새여 다시』, 2008.8, 익스날리지
- 『천연기념물 겐부동굴 보존정비사업 보고서』, 2010.3, 도요오카시



韓国の「村の森」の概念と現況

張 美娥（大韓民国：社団法人生命の森／専門委員）

1. はじめに

本稿では、韓国の天然記念物として新しい取組の一つである「村の森¹⁾」を取り上げ、その概念と現況について論じる。

韓国には現在500ヶ所にも及ぶ「村の森」がある²⁾といわれる。「村の森」は、古記録に林藪・洞藪・邑藪などと記され、現地ではスプ・水口マギ（水口塞）・スプジェンイなどと呼ばれている。このように様々な呼び方を総括する意味で「村の森」という言葉が1990年代に提案され³⁾、それ以後、主に地域に残るものに対して「村の森」と呼ぶようになった。

「村の森」は、人々の暮らしに関わって生活の場の周辺に形成された林⁴⁾であり、特別な目的や用途などをもって造成または管理されてきた森⁵⁾である。それらは、長い間、村民によって保護されてきた特徴があり、現在もその伝統が続いている。「村の森」の歴史は、韓半島の三国時代⁶⁾にも遡るといわれ、現存するもののなかには、約500年～600年の歴史を持つものも多い。

1970年代に始まった経済発展事業によって「村の森」は農耕地や道路などに開発され、数多くの森が失われてきた。また、農村における人口激減・高齢化によって「村の森」の管理まで手が回らず、天然林のように鬱蒼として、その本来の姿は衰退するようになった。

以上のように「村の森」は消滅しつつあるが、1990年代から大気汚染の深刻化による都市部内の緑地拡充政策の影響を受けて学問的・社会的関心が高まった。学問的には歴史的緑地文化の一つとして多くの論文が出され、また生物多様性や生態系機能などの研究対象としても注目されてきた。2000年代には民間団体⁷⁾が自然保護の一環として「村の森」の保全運動を始めた。

そのような流れのなかで、文化財庁では2003年に「村の森」の文化財指定のための政策的な取組として、『村の森に関する文化財資源調査』を推進してきた。この調査は、2006年まで4年間継続され、多くの「村の森」の現況が明らかにされたが、ごく一部を除いて文化財指定までには至っていない。

近年「村の森」は土地利用の変化に伴う消失が多いことから、現在のところ、文化財としての保護が有効といえるが、個人財産権の制限のため地域住民の反対が激しく、その指定は活発な状況とはいえない。

一方、山林庁では2004年から「緑色基金」を設けて「村の森」の復元事業を行っている。その内容は非常に実効的なもので、公募や推薦などを通じて復元対象になる「村の森」を選定し、森の整備や植樹などを行っている。

2. 「村の森」とはなにか

「村の森」は上述したように人々の生活の場の周辺にある目的を持って形成されたものである。

「村の森」の形成は、村民が防風林や保安林などの目的で人工的に植林した場合と、天然林を農耕地に開拓せずに、森の整備や部分的植林などを施して形成したものがある。それらは、村民によって森が維持できるよう代々管理されてきた。

2003年に文化庁が刊行した報告書⁸⁾には「村の森」をその機能や用途によって6つに分類している。その類型は、「城隍林」・「護岸林」・「魚付林」・「防風林」・「補害林」・「歴史林」である。

「城隍林」は、村を守る神々を祭る城隍堂の周りに形成された森である。その森は、人工的に植林されたものと、自然に形成された森に対して境域を定め保護したものがある。

「護岸林」は、村の周りに流れる川に堤防を築き、そこに土固めのために植林したものである。「魚付林」は、主に海岸に造成されるもので魚群誘致や漁場保護などを目的で植林したものである。

「防風林」は、冬場の冷たい北風や夏場の台風などの風害を防ぐために設けた森である。「補害林」は、風水地理論に基づく村の地形的欠陥を補うために設けられた森のことである。「歴史林」は、村に伝わる伝説などに関わる森のことである。

一方、山林庁の国立山林科学院の報告書⁹⁾には、「堂

山林（城隍林）」・「學術林」・「景觀林」・「風致林」・「防風林」・「護岸林」などに分類されている。

「村の森」はそれが位置する場所、すなわち村における空間的位置がある程度決まっているという特徴がある。



図－１．城隍林の例（江陵市邱井面邱井里）

その位置は、村の入口である洞口、村の周りを囲む山¹⁰⁾や稜線上、村の前方を流れる川沿いまたは海岸沿い、村の街道沿いなどである。



図－４．防風林の例（江原道春川市神銅洞）



図－２．魚付林の例（慶尙南道南海郡三東面勿巾里）



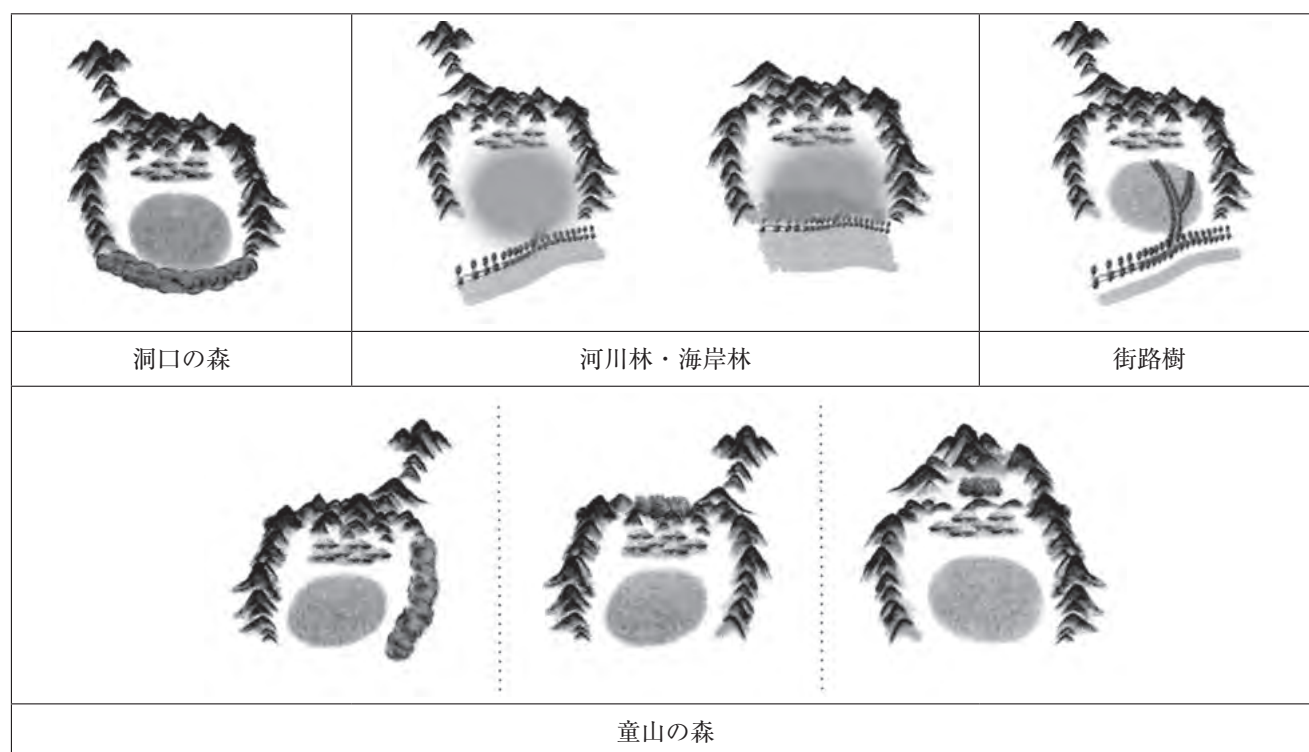
図－５．補害林の例（慶尙南道固城郡馬巖面章山里）



図－３．護岸林の例（全羅南道和順郡同福面蓮屯里）



図－６．歴史林の例（慶尙南道咸陽郡咸陽邑大德里）



図－7. 「村の森」の位置（※図版出典：社団法人「生命の森」リーフレット）

3. 「村の森」の文化財指定現況

韓国の文化財として指定されている「村の森」の大部分は天然記念物／植物／樹林地のなかに入っている。天然記念物は現在総計419件数であり、そのなかで植物が62％である259件数指定されている。

天然記念物の植物は5つに細分されている。それらは老巨樹・樹林地・珍貴植物・自生地・分布限界地などに分けられている。そのなか樹林地は総計46件数、樹林地のなかで「村の森」は20件数指定されている（表－1・2・3参考）。現在、文化財として指定されている「村の森」は、現存する「村の森」に比べてごく一部である。

表－2. 天然記念物における植物分野の指定現況
(2011年8月17日現在)

区 分	指定件数	計
老巨樹	168 (65%)	259 (100%)
樹林地	46 (18%)	
珍貴植物	19 (7%)	
自生地	13 (5%)	
分布限界地	13 (5%)	

表－1. 天然記念物の指定現況 (2011年8月17日現在)

植物					動物										地質				天然保護区域			計
259 (62%)					76 (18%)										73 (17%)				11 (3%)			419 (100%)
老巨樹	樹林地	珍貴植物	自生地	分布限界地	棲息地	渡来地	繁殖地	鳥類	哺乳類	魚類	昆虫類	爬虫類	海洋動物	飼育動物	地形・地質	化石	天然洞窟	岩石	山岳	海洋	島嶼	
168	46	19	13	13	9	6	14	26	7	4	3	1	2	4	30	20	18	5	4	2	5	

表－３．天然記念物（樹林地）として指定されている「村の森」

番号	指定番号	指定名所	所在地	指定日	規模	分類	造成時期	植生	樹齢
1	029	南海彌助里常緑樹林	慶尙南道南海郡彌助面彌助里	1962.12.07	3,441 m ² (1,042坪)	防風林・魚付林	未詳	タブノキ・カゴノキ・ヤブニッケイ・モチノキ・サカキなど	100年以上
2	040	莞島禮松里常緑樹林	全羅南道莞島郡甫吉面禮松里	1962.12.07	58,486 m ² (17,723坪)	防風林・魚付林	約300年前	アカガシ・ウラジロガシ・タブノキ・スダジイ・ツバキ・クスノキ・ハマビワ・ネズミモチ・ハマヒサカキ・オオハグミなど	100年以上
3	082	務安清川里エノキ・イスドクサ林	全羅南道務安郡青溪面清川里	1962.12.07	11,969 m ² (3,626坪)	防風林・補害林	約500年前	エノキ（約60株）・イスドクサ（約20株）・ケヤキ（3株）	約500年
4	093	原城城南里城隍林	江原道原州市神林面城南里	1962.12.07	63,877 m ² (19,360坪)	城隍林	約100年前	オニメグスリ・ハリギリ・コナラ・ミズキ・アムールシナノキ・ヤチダモ・エゾノウワミズサクラなど	約100年
5	108	咸平郷校里ケヤキ・エノキ・イスドクサの林	全羅南道咸平郡大洞面郷校里	1962.12.07	14,917 m ² (4,520坪)	補害林	約400年前	エノキ（10株）・イスドクサ（52株）・ケヤキ（15株）・ムクノキ・クロマツ・ハリエンジュ	約350年
6	150	南海勿巾里防潮魚付林	慶尙南道南海郡三東面勿巾里	1962.12.07	25,091 m ² (7,603坪)	防風林・魚付林	約300年前	ヤマモモ・タブノキ・アカメヤナギ・ウリノキ・ダンカウバイ・ヒトツバタゴ・ヌツデなど	約300年
7	241	海南緑雨壇カヤ林	全羅南道海南郡海南邑蓮洞里	1972.08.02	29,700 m ² (9,000坪)	補害林	約500年前	カヤ単純林	約500年
8	309	釜山龜浦洞堂林	釜山広域市北區龜浦洞	1982.11.09	1,286 m ² (389坪)	城隍林	未詳	エノキ・アカマツなど	約500年
9	339	莞島美羅里常緑樹林	全羅南道莞島郡所安面美羅里	1983.08.23	26,097 m ² (7,908坪)	防風林・城隍林	未詳	クロマツ・スダジイ・クリ・ネズミモチ・タブノキなど	100年以上
10	340	莞島孟仙里常緑樹林	全羅南道莞島郡所安面孟仙里	1983.08.23	9,628 m ² (2,917坪)	防風林・魚付林	未詳	ツブラジイ・アカガシ・ヤブニッケイ・ヒサカキなど	100年以上
11	374	濟州坪垈里カヤ林	濟州道北濟州郡舊左邑坪垈里	1993.08.19	448,165 m ² (135,807坪)	城隍林	未詳	カヤ単純林（約2,600株）	約300～600年
12	375	濟州納邑里暖帯林	濟州道北濟州郡涯月邑納邑里（錦山公園内）	1993.08.19	34,000 m ² (10,303坪)	城隍林	未詳	タブノキ・ヤブニッケイ・アカガシ・アオキ・サンゴジュ・ツバキ・ツブラジイ・ヤブコウジ・キツタ・テイカカツラなど	100年以上
13	403	星州京山里城外林	慶尙北道星州郡星州邑京山里	1999.04.06	38,944 m ² (11,801坪)	補害林	約500年前	アカメヤナギ（59株）	約300～500年
14	404	永川慈川里五里長林	慶尙北道永川市華北面慈川里	1999.04.06	69,647 m ² (20,958坪)	防風林・護岸林・城隍林	約500年前	アベマキなど（12種280株）	約350年
15	405	義城沙村里横林	慶尙北道義城郡點谷面沙村里	1999.04.06	37,164 m ² (11,261坪)	防風林	約600年前	クスギ・ケヤキ・エノキなど（10種500余株）	約300～600年
16	469	醴泉金塘室松林	慶尙北道醴泉郡龍門面上金塘里	1906.03.28	21,864 m ² (6,625坪)	防風林・護岸林	未詳	アカマツ単純林	約30～300年
17	473	安東河回村萬松亭林	慶尙北道安東市豊川面河回里	1906.11.27	145,219 m ² (44,005坪)	補害林	約400年前	アカマツ単純林	約200年
18	476	英陽倣土村ハリゲヤキ・ノニレの林	慶尙北道英陽郡石保面倣南里	1907.02.21	18,594 m ² (5,634坪)	防風林・護岸林・城隍林	約400年前	ハリケヤキ・ノニレ	100年以上

番号	指定番号	指定名所	所在地	指定日	規模	分類	造成時期	植生	樹齢
19	480	寶城全日里 エノキ林	全羅南道寶城郡會泉 面全日里	1907.08.09	799 m ² (242坪)	防風林・ 補害林	約400年 前	エノキ単純林（19株）	約200～ 400年
20	514	盈徳道川里 道川林	慶尙北道盈徳郡南亭 面道川里	1909.12.30	19,064 m ² (5,776坪)	補害林・ 城隍林	約400年 前	ケヤキ・チョウセンミズ キ・ハリケヤキ・ヒトツ バタゴなど	約400年

4. 「村の森」の事例－醴泉・金塘室の松林

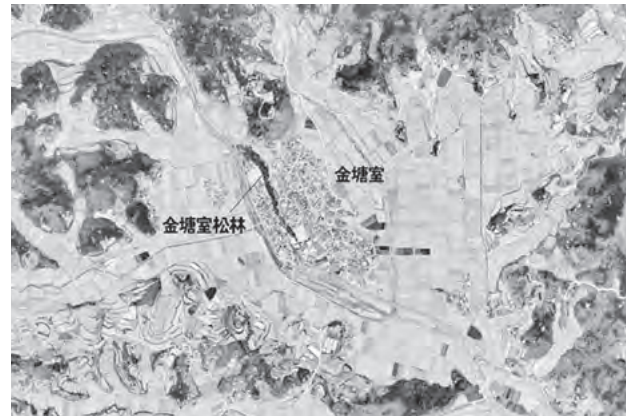
ここに具体的事例として紹介する「村の森」は、2006年3月28日に天然記念物第469号として指定された「醴泉・金塘室の松林」である。

金塘室松林は、韓国・東南部の慶尙北道醴泉郡龍門面に位置している。そこは、世界文化遺産に登録された河回村・良洞村から近く、儒教的伝統が強く残されている村である。2000年から始まった『慶尙北道儒教圏整備事業』の対象地に選ばれ、古宅や石／塀小路などが整備された。金塘室は、家々や町並み、周辺の山川、松林などが調和した非常に美しい村である。

金塘室は、四方が海拔高度300～850m程度の山に囲まれた盆地である。山の谷から発源された大きい河川を中心に、慶尙北道では珍しい大平野地帯が広がっており、古くから経済的に豊富な地域である。

金塘室は、今から600年前の15世紀初頭に、文献という人が開拓し、文献の孫・文柳磐の婿である朴從鱗(1496～1553)と邊應寧(1518～1586)が住み始めてから、文・朴・邊の後孫が繁盛し、大きな村が形成されたと伝える。

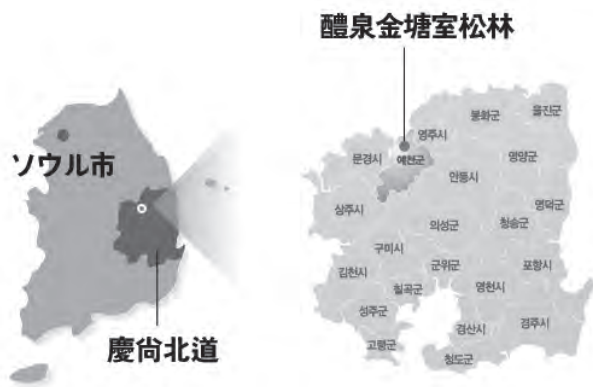
金塘室は、朝鮮時代の太祖（1代目の王）が新都地として全国から選んだ「十勝地¹¹⁾」の1つであったと記録されている。「十勝地」とは、戦争や天災地変などの被害を受けない安心できる地域のことで、実際に金塘室は一度も戦火の被害を受けてないことで有名である。



図－9. 醴泉・金塘室松林の衛星写真



図－10. 金塘室の全景と松林



図－8. 醴泉・金塘室松林の位置



図－11. 金塘室松林の全景



図－12. 金塘室松林の1938年度全景



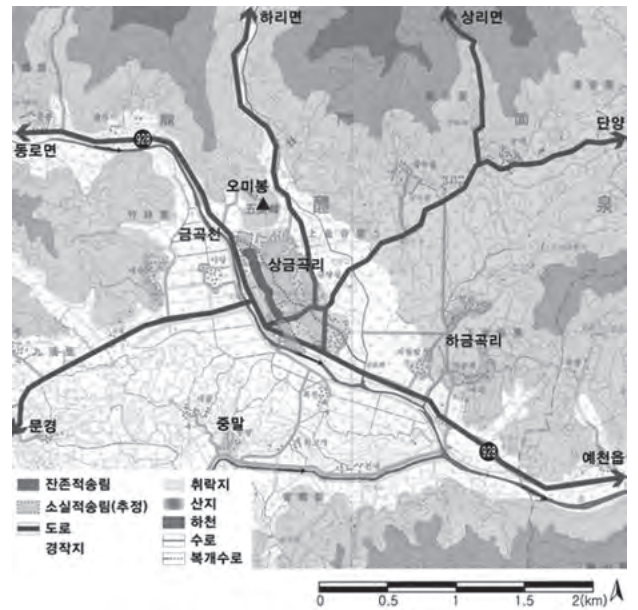
図－13. 金塘室松林の2005年の全景



図－14. 松林内部



図－15. 松林外観



図－16. 金塘室の周辺地形と松林の位置

これによって、全国から人々が集まり、100年前までは人口1万8千人を超える大きな町であったが、現在はわずかに500人が住む平凡な村になり、その大部分は高齢人口である。

金塘室という地名は、前述の朴從鱗と邊應寧の命名によるものである。金塘室の「金」は、村近くの河川から砂金が採集されていたことによるものであり、「塘」は金塘室の地形が風水論でいう「蓮花浮水形」に該当することから蓮花が咲く意味の「塘」を付して、「金塘室」としたと伝えられている。

金塘室は、朝鮮時代の伝統家屋と迷路のような石塀小路が蛇行して続く韓国の伝統村の様子をよく残している数少ない村である。また、朝鮮時代の両班（ヤンバン）文化を守ってきたところとしても有名である。

金塘室に残る伝統建造物としては、「金谷書院」、朴氏の入郷祖・朴從鱗の祭室である「追遠齋」、邊氏の入郷祖・邊應寧の祭室である「四槐堂」のほか、朝鮮時代中期の高位官僚・金賓の邸宅である「伴松齋」など、数多くの古宅が位置している。

以上の伝統建造物は『慶尚北道北部儒教圏事業』によって整備され、民宿や伝統生活体験・伝統礼法教育などの場として活用されている。

古宅には空き家は少なく、大部分は子孫が住み続けており、それ以外の場合であっても、賃貸していたり、管理人が住んでいたりと、管理状態は良好である。



図－17. 金谷書院



図－21. 進士堂



図－18. 追遠齋



図－22. 進士堂の内棟（アンチェ）



図－19. 四槐堂



図－23. 清谷堂の舎廊棟（サランチェ）



図－20. 伴松齋



図－24. 屏岩亭

金塘室から南東側に1 km離れた亭子山には屏岩亭が位置する。その亭子は、19世紀末金塘室に落郷してきた法務大臣・李裕寅が村の中に99間にも及ぶ大邸宅を建てたあと亭子山の絶壁上に造営したものである。屏岩亭の下には、金塘室の西境をなす金谷川が流れて来て沼をつくり、名勝をなしている。かつては、この辺まで金塘室の松林が続いていたとされる。

金塘室の松林は、村の西境をなす金谷川と並行する形で北西から南東に向けて帯状に造成されている。松林を構成する樹木の樹齢は、最古のものが約300年、近年補植されたもので30年ほどである。

金塘室の松林の文化財指定区域は21,864 m² (6,625坪)で、そのうち樹林の生育空間の面積は約15,000 m² (4,545坪)である。現在の規模は、延長500 m、幅30～40 mであるが、1938年出版された文献¹²⁾によると、延長800 m、幅30～50 mと記されている。村の形成初期には、村の北側にある五美峰から南東側の亭子山まで約2 kmにわたってつながっていたとされる。

口伝によると、金塘室の松林は、冬季の冷たい風を防ぐ防風と、夏季に金谷川の氾濫被害を緩和して家屋の浸水防止や水田保全などを目的として造成されたとされており、また、水口マギ（水口塞）であるとされる。水口マギとは、村の幸運が村の外へ抜けないようにするものであり、樹木や樹林、石塔などをもって水口マギにするところが多い。金塘室松林は、樹林を造成して水口マギとする好例である。

金塘室松林は、村の形成初期に造成されて400年以上守られてきたが、1892年に起こった歴史的事件によって伐採されるようになった。村民が神聖な境域として崇める五美峰を、政府と金鉱採掘契約を結んだロシア鉱山会社が、金の採集のため山を崩し始めた。それに驚いた村民たちが鉱山会社の従業員らと衝突し、従業員2人が死亡する事件が起こった。死亡した2人の賠償金を村民が共同で支払うことにしたが、費用充当には松林の大木を伐採・売却するしかなかった。そのため、数百年も守られてきた松林の姿が消えるようになったのである。

その後、京城から落郷していた楊州大監・李裕寅が「四山松契」を結び、松林を復原することを提案した。彼は自ら大金を出し、村民と一緒に力を合わせて樹林を造成し始めた。残存する松の幼木を保護し、新しい松を植え、樹林を形作ってから現在まで、金塘室松林は規模を縮小しつつも、良好な状態を維持しながら守られている。

また、金塘室松林は、村民の端午やお盆などの節句の行事の場として、また日常生活における休憩の場、親睦会の場など、色々と活用されてきた。

今日、金塘室松林の規模は1／4程度に縮小されたが、2006年に天然記念物として国家指定された。指定後には、醴泉郡が管理保護を担当し、松林の病虫害管理や枯木除去、後継木の植樹などを行っている。

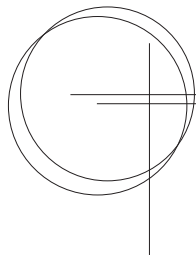
醴泉郡が管理保護を担当してから、村民の自発的管理参加がなくなり、それに伴って村民の松林に関する関心も薄くなっている。村民の高齢化による人口減少と、新しい帰農人口の流入などで村の構造が変化していく今日、村の歴史と文化のなかで生き続けてきた「村の森」の価値が後代に継承され難しくなっている。その原因の一つは、醴泉郡が行政上の便利を図るため形式的に管理保護を行い、松林に対する村民の意見聴取や管理参加への誘導などをまったく行われていないことが上げられる。

「村の森」は、管理主体としての村民が彼らの生活のなかで持続的に関係を持ちながら新しい伝統を作っていくことで、その価値が生き残る。

今後、文化財指定後の行政中心の管理体系を改善していくことが必要である。

【註および文献】

- 1) 「村の森」は、ハングルの「マウルスプ」を著者が直訳したものである。「マウルスプ」の「マウル」は「村」の意味であり、「スプ」は「林」あるいは「森」の意味をもつ（英語ではgroveの意味）。
- 2) 李道元ほか3名（2007）：『伝統的村の森の生態系サービス』、ソウル大学出版部、p.p.43-45
韓国における「村の森」に関する総合的調査研究は、現在山林庁の国立山林科学院と国立ソウル大学校の環境研究所が共同で進行している。来年にその結果をまとめる予定である。
- 3) 「マウルスプ」の言葉が本格的に使用されるようになったのは、1994年出版された『マウルスプ－韓国伝統部落の堂スプ（堂林）と水口マギ（水口塞）』（金学範・張東洙共著）からである。その前、1980年代から論文などで「マウルスプ」という言葉が使われている。
- 4) 森と林の違いは、その形・立地・管理などの側面でその意味が異なるが、ハングルの「スプ」は森と林の意味を合わせ持っている。このことから、本文では、森と林を混用することにする。
- 5) 「村の森」には、人工的に植林して造成したものと、天然林をある目的に合わせて形造ったものがある。
- 6) 高句麗・百濟・新羅が並立していた時代である。B.C. 3世紀または2世紀に国家として成立し、A.D.668年、新羅によって統一された。
- 7) 代表的な民間団体として「(社) 生命の森」が挙げられる。特に「村の森」については復元事業も行っている。
- 8) 文化財庁（2003）：『村の森における文化財資源調査研究報告書』、ソウル、p.p.4-5
- 9) 林業研究院（1995）：『韓国の伝統生活環境保全林』、ソウル、山林庁。林業研究院は2004年国立山林科学院に改称した。
- 10) 村を囲む小山のことを童山または東山という。
- 11) 「十勝地」は、普通名勝地として風光がもっとも優れたところを指す言葉であるが、風水論という地気のよい場所を指す言葉としても使われる。ここでは、後者の意味をもつ。
- 12) 朝鮮総督府（1938）：『朝鮮の林藪』、京城



韓國의 “마을숲”의 概念과 現況

장 미아 (사단법인 생명의숲 전문위원)

1. 序論

본고에서는 천연기념물의 새로운 분야로 손꼽히는 마을숲에 대하여 보고하고자 한다. 현재 한국에는 500개소에 이르는 마을숲이 존재한다고 알려져 있다¹. 마을숲은 고기록에 林藪, 洞藪, 邑藪 등으로 기록되어 있고, 현지에서는 숲, 수구막이, 숲쟁이 등으로도 불리고 있다. 마을숲이란 용어는 1990년대에 제안²된 용어로 다양한 명칭을 통괄하는 의미가 있다.

마을숲은 사람들의 생활과 관련하여 취락 근처에 형성되는 숲으로서 특별한 목적이나 용도에 의해 조성되거나 관리되어 온 숲이다. 마을숲은 마을주민에 의해 오랜 동안 보호되어온 특징이 있으며, 지금도 그러한 전통이 이어지고 있다. 마을숲의 형성기원은 삼국시대까지 올라가지만 현존하는 마을숲은 오래된 것이 500년~600년의 역사를 갖는 것이 대부분이다.

1970년부터 시작된 경제개발사업과 새마을사업에 의해 마을숲은 농경지나 도로 등으로 개간되었고, 많은 숲이 소실되었다. 또한 농촌의 인구감소, 노령화는 마을숲에 대한 관리를 소홀히 하게 되는 결과를 초래하여 숲이 천연림처럼 변하여 원래의 모습을 잃어버리거나 쇠퇴하게 되었다.

마을숲은 점점 사라지고 있지만 1990년도부터 꺼꾸로 학술적, 사회적 관심이 높아지고 있다. 대기오염 등이 심화되면서 도시녹지확충문제가 사회적 관심사로 떠오르자 전통적 녹지문화로서 마을숲에 대한 관심이 높아졌다. 또한 마을숲은 생물다양성이나 생태계 기능분야의 연구대상으로서도 각광을 받기 시작하였다.

2000년대에 들어서는 민간단체에서 자연보호운동의 일환으로 마을숲의 보전운동을 시작하였다. 이러한 사회적 분위기 속에서 문화재청에서는 마을숲의 문화재지정을 위한 <마을숲 문화재 자원조사>를 시행하였고, 정책적으로 다루기 시작하였다. <마을숲 문화재 자원조사>는 2006년까지 4년간 계속되었는데 이 보고서에 의해 마을숲의 현황이 종합적으로 정리되었다.

그러나 이 조사에 의해 밝혀진 마을숲에 대해서는 극히 일부분을 제외하고 문화재 지정에는 이르지 못하

였는데 사유재산권 침해를 우려한 해당 지역 주민의 반대가 극심하였기 때문이다.

현재 점점 사라지고 있는 마을숲은 토지전용에 의한 소실이 가장 많은데 현 단계에서는 문화재지정에 의한 보존이 마을숲 보호에 최우선택이라 할 수 있기 때문에 문화재지정이 활발하지 못한 점이 매우 아쉽다.

한편 산림청에서는 2004년부터 『녹색기금』에 의한 마을숲 복원사업을 시행하고 있다. 산림청의 사업내용은 매우 실효적인 것으로 공모 또는 추천을 통해 복원대상인 마을숲을 선정하여 숲의 정비와 후계목을 심는 등의 사업을 추진하고 있다.

2. 마을숲의 概念과 類型

마을숲은 앞에서 서술한 바와 같이 사람들이 생활하는 장소 주변에 특별한 목적을 갖고 형성된 숲이다. 마을숲의 형성은 마을주민이 방풍이나 홍수피해 등을 완화하려는 목적으로 인공적으로 조성한 숲, 또는 천연림을 농경지로 개척하지 않고, 목적에 맞게 정비하거나 부분적으로 나무를 심어 형성한 것 등이 있다. 마을숲은 마을이 형성될 당시에 조성되는 경우도 있는데 이런 경우에는 마을주민이 대대로 관리하여 온 경우가 많다.

2003년 문화재청이 발간한 보고서³에는 마을숲을 기능이나 용도에 의해 성황림, 호안림, 어부림, 방풍림, 보해림, 역사림 등 6개로 구분한 유형이 나온다. 성황림은 마을을 수호하는 신에게 제사 지내는 성황당 주변에 형성된 숲으로 인공적으로 나무를 심은 경우와 자연적으로 형성된 숲을 경역을 정하여 예부터 보호하여 온 경우가 있다. 호안림은 마을의 전방 또는 측방을 흐르는 하천의 양안에 제방을 만들고, 홍수가 날 때 제방의 흙이 떠내려가는 것을 방지하고자 제방에 나무를 심어 숲을 조성한 것이다. 방풍림은 겨울철의 북서풍이나, 여름철의 태풍 등 풍해를 방지하려는 목적으로 조성한 숲이다. 보해림은 풍수지리설에 의한 것으로 지형적인 결함을 보충하려는 비보적인 숲, 또는 풍수적으로 좋지 않은 지형상의 특이점을 감추기 위한 숲 등을 말한다. 역사림은 마을에

전해 내려 오는 전설 등과 관련된 숲으로 마을주민들이 대대로 보호해오는 숲을 말한다. 이 외에도 산림청 국립산림과학원의 보고서⁴에는 당산림, 학솔림, 경관림, 방풍림, 호안림 등으로 분류되어 있다.

마을숲은 위치하는 장소 즉 마을의 공간적 위치가 어

느 정도 정형화되어 있다. 마을의 입구인 동구, 마을 주변 동산이나 능선, 마을 전방을 흐르는 하천가 또는 해변가, 마을의 주도로선 상의 가로숲 등이 그것이다.



도면 1. 성항림의 예 (강원도 강릉시 구정면 구정리숲)



도면 4. 방풍림의 예 (강원도 춘천시 신동동)



도면 2. 어부림의 예 (경상남도 해안군 삼동면 물건리)



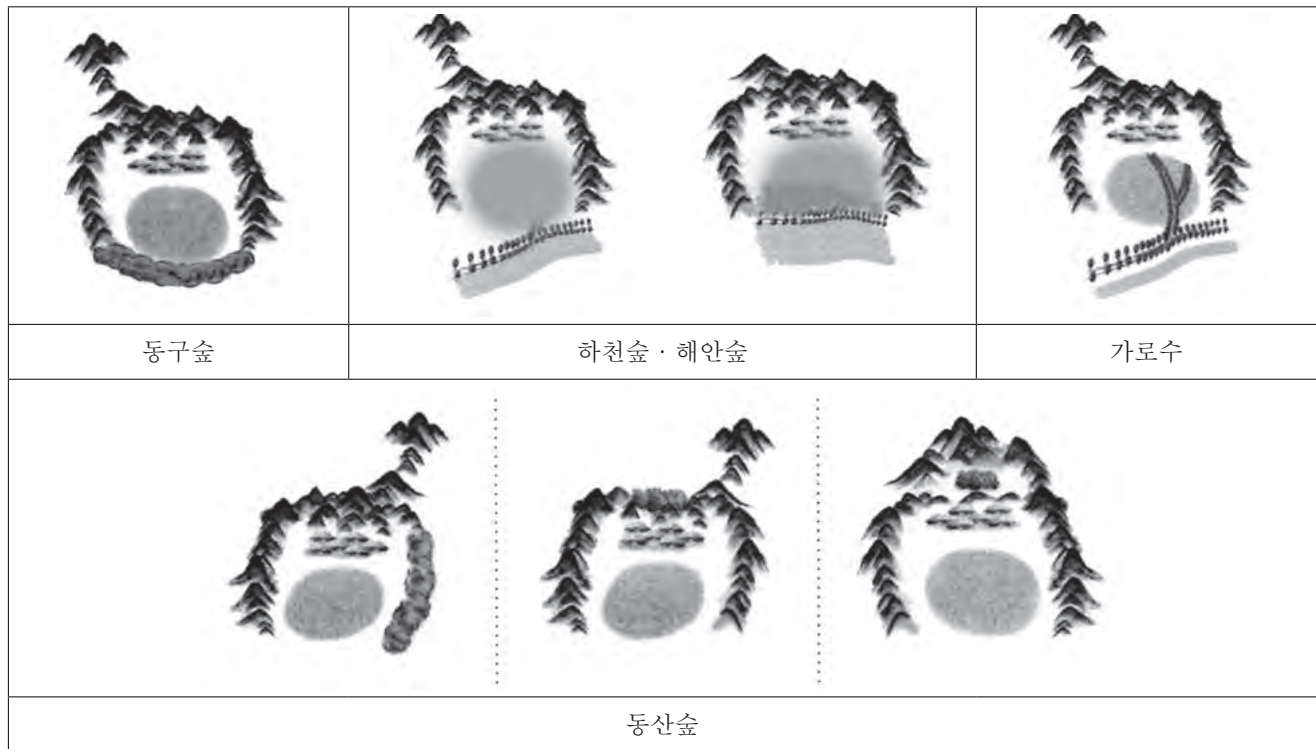
도면 5. 보해림의 예 (경상남도 고성군 마암면 장산리)



도면 3. 호안림의 예 (전라남도 화순군 동북면 연둔리)



도면 6. 역사림의 예 (경상남도 함양군 함양읍 대덕리)



도면 7. “마을숲”의 위치 [※도면인용 : (사)생명의숲 리플렛]

표 1. 천연기념물 지정현황 (2011년 8월 17일 현재)

식물					동물										지질				천연보호구역			계
259 (62%)					76 (18%)										73 (17%)				11 (3%)			419 (100%)
노거수	수림지	희귀식물	자생지	분포한계지	서식지	도래지	번식지	조류	포유류	어류	곤충류	파충류	해양동물	사육동물	지형·지질	화석	천연동굴	암석	산악	해양	도서	
168	46	19	13	13	9	6	14	26	7	4	3	1	2	4	30	20	18	5	4	2	5	

표 2. 천연기념물 식물분야 지정현황 (2011년 8월 17일)

구분	지정건수	계
노거수	168 (65%)	259 (100%)
수림지	46 (18%)	
희귀식물	19 (7%)	
자생지	13 (5%)	
분포한계지	13 (5%)	

3. 마을숲의 文化財 指定 現況

문화재로 지정되어 있는 마을숲의 대부분은 천연기념물/식물/수림지에 속해 있다. 천연기념물은 현재 총 419건이 지정되어 있고, 그 중에서 식물은 62%인 259건이 지정되어 있다. 천연기념물 식물은 5분야로 구분되어 있는데 노거수, 수림지, 희귀식물, 자생지,

분포한계지 등으로 그 중 수림지는 총 46건이 지정되어 있다. 수림지 중에서 마을숲은 총 20건이 지정되어 있다(표 1,2,3 참조). 현재 문화재로 지정되어 있는 마을숲은 현존하는 마을숲에 비해 매우 일부분만이 지정되어 있는 것이다.

표 3. 천연기념물(수림지)로 지정되어 있는 마을숲 목록

번호	지정번호	명칭	소재지	지정일
1	029	남해미조리상록수림	경상남도 남해군 미조면 미조리	'62.12.07
2	040	완도예송리상록수림	전라남도 완도군 보길면 예송리	'62.12.07
3	082	무안청천리팽나무개서어나무숲	전라남도 무안군 청계면 청천리	'62.12.07
4	093	원성성남리성황림	강원도 원주시 신림면 성남리	'62.12.07
5	108	함평향교리느티나무팽나무개서어나무숲	전라남도 함평군 대동면 향교리	'62.12.07
6	150	남해물건리방조어부림	경상남도 남해군 삼동면 물건리	'62.12.07
7	241	남해녹우당비자나무숲	전라남도 해남군 해남읍 연동리	'72.08.02
8	309	부산구포동당숲	부산광역시 북구 구포동	'82.11.09
9	339	완도미라리상록수림	전라남도 완도군 소안면 미라리	'83.08.23
10	340	완도맹선리상록수림	전라남도 완도군 소안면 맹선리	'83.08.23
11	374	제주평대리비자나무숲	제주도 북제주군 구좌읍 대평리	'93.08.19
12	375	제주납읍리난대림	제주도 북제주군 애월읍 납읍리	'93.08.19
13	403	성산경산리성막숲	경상북도 성주군 성주읍 경산리	'99.04.06
14	404	영천자천리오리장숲	경상북도 영천시 화북면 자천리	'99.04.06
15	405	의성사촌리가로숲	경상북도 의성군 점곡면 사촌리	'99.04.06
16	469	예천금당실송림	경상북도 예천군 용문면 상금곡리	'06.03.28
17	473	안동하회마을만송정숲	경상북도 안동시 풍천면 하회리	'06.11.27
18	476	영양주사골시무나무비슬나무숲	경상북도 영양군 석보면 주남리	'07.02.21
19	480	보성전일리팽나무숲	전라남도 보성군 회천면 전일리	'07.08.09
20	514	영덕도천리도림숲	경상북도 영덕군 남정면 도천리	'09.12.30

4. 마을숲의 사례

본고에서 사례지로 꼽은 예천 금당실 송림은 2006년 3월 28일 천연기념물 제469호로 지정된 숲이다.

금당실 송림은 한국의 동남부 경상북도 예천군에 위치하는데 이곳은 세계문화유산으로 지정된 하회마을·양동마을과 가깝고, 유교적 전통이 강하게 남아있는 지역으로 『경상북도 북부 유교권 사업』이 실행되어 마을 정비가 이루어져 전통적인 고택과 마을숲이 아름다운 경관을 자아내고 있다.

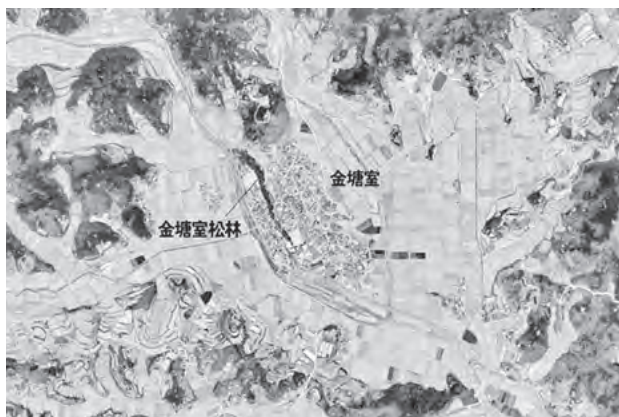
금당실 송림이 자리한 마을의 지형을 보면 사방이 높은 산들로 둘러싸여 있고, 계곡에서 발원한 큰 하천을 중심으로 경북지방에서는 보기 드문 큰 평야지대를 형성하고 있어 예부터 경제적으로 풍족한 지역에 속한다.

금당실은 지금으로부터 600여 년 전 15세기 초에 감천 문씨인 문헌(文獻)이 정착하여 살면서 집성촌을 형성하였고, 그 뒤 입향조 문헌의 손자 문부경의 사위인 박종린과 변응녕이 금당실로 들어와 살게 되면서 문씨, 박씨, 변씨의 후손들이 번성하여 큰 마을을 형성하게 되었다고 전한다.

금당실은 조선 태조가 새로운 도읍지를 정하고자 전국의 좋은 땅을 살폈을 때 10승지 안에 손꼽혔던 곳이라고 전한다. 10승지는 전쟁이나 천재지변에도 안심할 수



도면 8. 예천 금당실 송림의 위치



도면 9. 예천 금당실 송림의 위성사진



도면 10. 금당실 전경



도면 11. 금당실 송림 전경



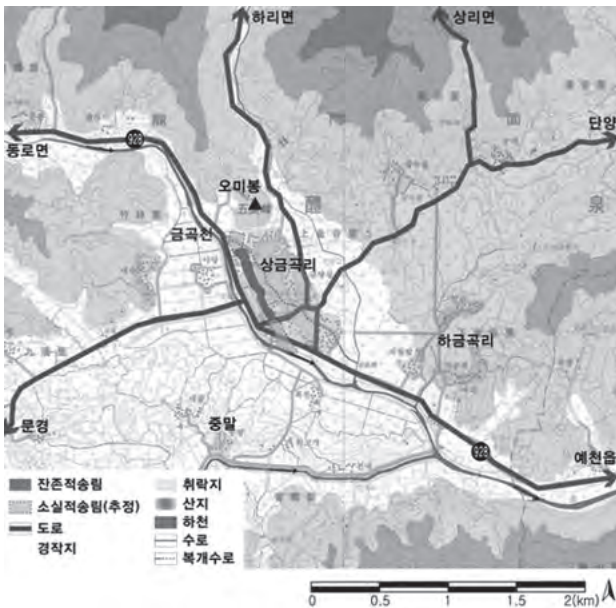
도면 12. 금당실 송림의 1938 년도 전경



도면 13. 금당실 송림의 2005 년도 전경



도면 14. 숲 내부의 소나무 전경



도면 15. 금당실 송림의 주변 토지 이용 현황

있는 땅으로 실제로 임진왜란 때에도 전화의 피해를 입지 않았던 곳으로 유명하다. 이러한 풍수지리적 영향으로 한 때는 인구 1만8천명의 큰 마을이었으나 현재는 약 400가구 인구 500명 정도가 사는 마을로 거의 노령 인구가 살고 있다.

금당실이란 지명은 박종인과 변응영이 마을의 지형을 풍수지리론으로 풀이하여 연화부수형(蓮花浮水形)에 해당하는 형국이므로 연못을 상징하는 당(塘)을 붙여 금당실이라 명명하였다고 전한다.

금당실마을은 조선시대 고가옥과 미로로 연결되어 있는 돌담길이 양반문화를 그대로 간직한 전통마을로서 역사, 문화, 전통이 강한 곳이다.

함양 박씨 3인을 모신 금곡서원, 함양박씨 입향조 박종린을 숭모하여 재향 올리는 추원재, 원주 변씨 변응영을 기리는 사괴당 고택, 양주대감 이유인의 99칸 고택터, 조선 숙종 때 도승지 김빈을 추모하는 반송재 고택

등 이외에도 많은 고택들이 위치하고 있다.

현재고택들은 『경상북도 북부 유교권 사업』에 의해 정비되어 민박, 전통생활체험, 전통예절교육 등의 장소로 활용되고 있으며, 거의 모든 고택이 후손 또는 소유자가 거주하고 있어 관리상태가 매우 좋은 상황이다.

금당실 마을에서 남동쪽 1km 떨어진 곳에 병암정이 위치하는데 1898에 양주대감 이유인이 금당실마을에 99칸 집을 짓고 동시에 옥소정이라는 이름으로 이 정자를 지었다고 전한다. 금당실마을 서쪽 경계를 흐르는 금



도면 16. 금곡서원 전경



도면 17. 추원재 전경



도면 18. 사괴당 전경



도면 19. 양주대간 99 칸 고택터



도면 23. 청곡당 사랑채



도면 20. 반송재



도면 24. 병암정 전경



도면 21. 진사당 전경



도면 22. 진사당 안채

곡천이 정자가 위치한 절벽에서 소를 만들면서 흘러 자연스러운 연못이 형성되었는데 현재는 주변이 논으로 변하면서 연당으로 조성하여 놓았다. 1920년 무렵 예천 권씨 문중에서 옥소정을 매입해 이름을 '병암정'으로 고쳐 오늘에 이른다.

금당실 송림은 마을의 서쪽을 흐르는 금곡천과 평행한 모양으로 북서에서 남동쪽으로 뻗어있는 띠모양의 숲이다. 예천읍 용문면 상금곡리로 소나무 단순림으로 구성되어 있다. 이곳 나무의 나이는 최고가 약 300년, 최저가 최근에 심은 나무로 약 30년 정도이다

이곳은 문화재 지정구역이 21,864㎡(6,625坪)이지만 실제 숲의 면적은 약 15,000㎡(4,545坪)이다. 금당실 송림은 현재의 규모는 연장길이 500m, 숲의 폭이 30~40m이지만 1938년도에는 연장길이는 800m, 숲의 폭이 30~50m에 이르렀다고 한다⁵. 현재의 숲은 축소되어 있는 상태이다.

마을 구전에 의하면 금당실 송림은 겨울철 북서풍의 찬바람을 막는 방풍의 목적과 여름철 금곡천의 범람피해를 완화하여 마을을 보호할 목적으로 마을이 형성될 당시 조성되었다고 전한다. 또한 마을 서쪽 경계를 흐르는 금곡천의 수구막이의 기능을 하었는데 수구막이란 마을의 좋은 기운이 밖으로 빠져나가는 것을 막는 것을 뜻하

는데 마을 주변의 나무, 돌탑 등을 이용하였다. 특히 마을 주변을 흐르는 하천의 하류 부분이 마을에서 직접 보이는 것을 금기시하였는데 이런 곳에 대규모의 숲을 조성한 곳이 많았다. 금당실 송림도 이런 수구막이의 기능을 한 것으로 전한다.

금당실 송림은 금곡천을 따라 금당실 마을의 북쪽 오미봉에서 남동쪽 병암정까지 약 2km에 걸쳐 금곡천을 따라 조성되어 있었다고 전한다.



도면 25. 금당실 송림의 현황

금당실 송림은 마을 형성 초기에 조성되어 400년 이상 이어져 내려 오다 1982년 역사적 사건에 의해 모두 벌채되게 되었다. 마을에서 신성하게 보호하고 있는 주산인 오미봉에서 국가와 계약을 맺은 러시아광산회사 작업자가 금광을 채굴하려 산을 파헤치자 마을주민과 심하게 충돌하였다. 그 결과 광산종업원 2명이 사망하는 사건이 발생되었다. 이때 사망한 자들에 대한 배상책임을 마을에서 하기로 하고, 마을 공동소유의 송림의 아름다운 소나무를 벌채하여 목재로 팔아 배상금을 충당하게 되었다. 이 사건으로 수백 년 동안 지켜오던 송림이 그 모습을 잃게 되자, 마침 마을에 낙향해 있던 양주대감 이유인이 사산송계를 결성하여 송림을 복원할 것을 권유하고, 스스로 비용을 내고, 마을주민들이 힘을 합쳐 마을숲을 조성하기 시작하였다. 잔존하던 어린 소나무를 보호하고, 새로운 나무를 식목한 이래 120년 간 금당실

송림은 잘 보존되어 왔으며 마을주민들이 단오절의 그네뛰기, 추석절의 씨름, 등의 절기행사와, 일상생활 상의 휴식장소, 동창회 모임, 친목회 모임 등에 이용하는 공간이었다

120여 년이 지난 오늘날 숲의 규모는 1/4 정도 밖에 남지 않았으나 2006년 문화재로 지정되어 예천군이 관리보호를 담당하게 되었다.

금당실 송림은 문화재 지정과 함께 수목병충해 관리 및 고사목 제거, 후계목 식목 등의 수목관리를 예천군에서 담당하고 있다.

그러나 문화재로 지정되면서 마을주민들의 관심과 자발적 참여에 의한 숲의 관리의식이 점점 희박해지는 문제점이 발생되고 있다. 마을주민들의 노령화에 의한 인구감소와 함께 새로운 귀농인구에 의해 마을구조가 바뀌고 있는 시점에서 마을주민들의 역사와 문화에 오래 동안 녹아있는 마을숲에 대한 가치가 희미해지 있으며, 예천군의 형식적인 관리보호에 마을주민들을 배제시킴으로서 마을숲이 마을주민들의 삶과 유리된 채 박제화되어 가는 현상이 발생되고 있다.

마을숲의 가치는 마을주민들의 관심과 참여로 생활 속에서 지속적으로 가꾸고 이용함으로써 본래의 가치가 계승되는 것으로 문화재 지정의 행정 중심의 관리체계를 개선해나가야 할 필요가 있다.

【참고 및 문헌】

- 1) 이도원 외 3인 (2007): 『전통마을숲의 생태계서비스』, 서울대학출판부, p.p. 43-45.
마을숲에 관한 종합적 조사연구는 현재 산림청의 국립산림과학원과 국립서울대학교 환경연구소가 공동으로 진행하고 있다.
- 2) 마을숲이란 용어가 본격적으로 사용되게 된 것은 1994년도에 출간된 『마을숲－한국전통부락의 당숲과 수구막이』 (김학범·장동수 공저) 에서부터이다. 그러나 1980년대의 논문 등에서도 간혹 「마을숲」이란 용어가 사용되고 있다.
- 3) 문화재청 (2003): 『마을숲 문화재 자원조사 연구보고서』, 서울, p.p. 4-5.
- 4) 임업연구원 (1995): 『한국의 전통생활환경보전림』, 서울, 산림청. 임업연구원은 2004년 국립산림과학원으로 개칭되었다.
- 5) 조선총독부 (1938): 『조선의 임수』, 서울